

# 植物園北遺跡発掘調査報告書

2 0 2 4

株式会社 文化財サービス





1. 調査地遠景（南西から・五山の送り火「妙」方面を望む）



2. 調査地遠景（北西から・第13次、16次調査地方面を望む）



## 例 言

- 1 本書は、京都市左京区下鴨北芝町 13、25 番地で実施した、植物園北遺跡の発掘調査成果報告書である。(京都市番号 23S459)
- 2 調査は、共同住宅建設に伴い実施した。
- 3 現地調査は、開発事業者より株式会社文化財サービス（以下、「文化財サービス」という）に委託され、田邊貴教（文化財サービス）が担当した。
- 4 調査期間は令和 6 年 2 月 16 日～3 月 29 日である。
- 5 調査面積は 294 m<sup>2</sup>である。
- 6 本文・図中の方位・座標は世界測地系による。標高は T.P.（東京湾平均海面高度）である。
- 7 土層名および出土遺物の色調は、農林水産省水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』に準じた。
- 8 本書の執筆は田邊が行い、編集は田邊、野地ますみ、興梠千春（文化財サービス）が行った。
- 9 現地での記録写真撮影は田邊が行い、出土遺物の撮影は写房楠華堂（内田真紀子氏）に依頼した。
- 10 現地での重機掘削は、株式会社一誠建設に依頼した。
- 11 調査に係る資機材のリースおよび仮設工事は株式会社 Soid に依頼した。
- 12 調査に係る資料は京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課が保管している。
- 13 発掘調査および整理作業の参加者は、下記の通りである。

〔発掘調査〕 菅田 薫、田中慎一、上田智也、吉岡創平（以上、文化財サービス）、作業員（株式会社京カンリ）

〔整理作業〕 望月麻佑、塩地宏行、多賀摩耶、森下直子、野地ますみ、興梠千春、神野いくみ、上野恵己、甲田春奈、下市沙耶香、内牧明彦、溝川珠樹（以上、文化財サービス）
- 14 出土遺物の年代観は、寺沢 薫・森岡秀人『弥生土器の様式と編年 近畿編Ⅱ』木耳社 1990 年  
吹田直子「山城における古墳時代初期前後の土器様相」『古墳出現期の土師器と実年代』財団法人大阪府文化財センター 2003 年  
平尾政幸「土師器再考」『洛史 研究紀要 第 12 号』公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2019 年  
中世土器研究会『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社 1995 年に依った。
- 15 現地調査、整理作業において、下記の方から御教示をいただいた。記して感謝いたします。（敬称略）

伊藤淳史（京都大学）、國下多美樹（龍谷大学）、吉崎 伸（NPO 法人平安京調査会）

# 目次

## 第I章 調査の経緯

1 調査に至る経緯	1
2 調査の経過	1
3 測量基準点の設置と地区割り	3
4 整理作業・報告書作成	3

## 第II章 位置と環境

1 位置と環境	5
2 既往の調査	5

## 第III章 調査成果

1 基本層序	12
2 検出遺構	12
(1) 第1面	12
(I) 近世の遺構	12
(II) 平安時代後期～末期の遺構	13
(III) 古墳時代前期以降の遺構	13
(2) 第2面	17
3 出土遺物	22
(1) 遺構検出中出土遺物	22
(2) 第1面遺構出土遺物	22
(I) 近世の遺構	22
(II) 平安時代後期～末期の遺構	23
(3) 第3層出土遺物	23
(4) 第2面遺構出土遺物	23

## 第IV章 まとめ

1 各面の検出遺構について	25
2 当調査区および周辺調査で確認された建物跡の時代推移	27
3 当調査区および周辺調査で確認された多角形プランの竪穴建物について	27
4 当調査区および周辺調査で確認された方形竪穴建物の真北に対する角度について	30

附章 本調査地にて出土した脇差および刀装具について	35
---------------------------	----

## 図版目次

- 巻頭図版 1. 調査地遠景（南西から・五山の送り火「妙」方面を望む）  
2. 調査地遠景（北西から・第13次、16次調査地方面を望む）
- 図版 1 調査区北壁・西壁・南壁断面図（1：100）
- 図版 2 第1面平面図（1：150）
- 図版 3 土坑010・011、柱穴020平面・断面図（1：40）
- 図版 4 第2面平面図（1：150）
- 図版 5 竪穴建物002平面・断面図（1：80）
- 図版 6 土坑067平面・立面図（1：20）
- 図版 7 竪穴建物003平面・断面図（1：40）
- 図版 8 出土遺物1（1：4）
- 図版 9 出土遺物2（1：4）
- 図版 10 遺構 1. 第1面全景（南から）  
2. 第1面全景（北から）
- 図版 11 遺構 1. 第1面全景（上が東）  
2. 土坑010半裁状況（南から）
- 図版 12 遺構 1. 土坑011完掘状況（西から）  
2. 柱穴020根石検出状況（南から）
- 図版 13 遺構 1. 第2面全景（南から）  
2. 第2面全景（北から）
- 図版 14 遺構 1. 第2面全景（上が東）  
2. 竪穴建物002全景（上が北）
- 図版 15 遺構 1. 竪穴建物002全景（南から）  
2. 竪穴建物002全景（北西から）
- 図版 16 遺構 1. 竪穴建物002内土坑067遺物出土状況（南西から）  
2. 竪穴建物002内土坑067遺物出土状況（北西から）
- 図版 17 遺構 1. 竪穴建物002内溝066遺物出土状況（北東から）  
2. 竪穴建物002内溝066遺物出土状況（南東から）
- 図版 18 遺構 1. 竪穴建物003全景（北から）  
2. 竪穴建物003全景（上が北）
- 図版 19 遺物 1. 第1面 遺構検出中、溝001、土坑010・011、柱穴020、第3層出土遺物  
（土師器・須恵器・灰釉陶器・輸入白磁・染付）  
2. 第2面 竪穴建物002埋土、柱穴063、溝066出土遺物（土師器・石製品）
- 図版 20 遺物 1. 第2面 土坑067出土遺物（土師器）  
2. 第2面 竪穴建物003埋土出土遺物（土師器・石製品）
- 図版 21 遺物 1. 耕作土出土遺物（脇差刀身・ハバキ・鞘）  
2. 耕作土出土遺物（鏝）  
3. 耕作土出土遺物（縁金・切羽）

- 図版 22 遺物
1. 鞘赤外線スキャン画像1 『□秀□』
  2. 鞘赤外線スキャン画像2
  3. 鞘赤外線スキャン画像3
  4. 鞘赤外線スキャン画像4

## 挿図目次

図1	調査地位置図 (1 : 2,500) .....	1
図2	調査経過写真 .....	2
図3	調査区地区割り・基準点配置図 (1 : 150) .....	4
図4	既往調査位置図1 (1 : 5,000) .....	6
図5	既往調査位置図2 (1 : 10,000) .....	7
図6	調査地周辺建物跡分布図 (1 : 5,000) .....	28
図7	第13次・第16次調査合成図 (1 : 600) .....	29

## 表目次

表1	既往調査一覧表 .....	9
表2	遺構概要表 .....	12
表3	遺物概要表 .....	22
表4	植物園北遺跡竪穴建物一覧表 .....	31
表5	遺物観察表 .....	33

# 第 I 章 調査の経緯

## 1 調査に至る経緯（図1）

調査地は京都市左京区下鴨北芝町13、25に位置し、植物園北遺跡の範囲内にあたる。当地において共同住宅の建設が計画され、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以下、「文化財保護課」という）による試掘調査が実施された。その結果、古墳時代前期の遺構および遺物の存在が確認され、発掘調査を実施することとなった。調査は開発事業者から株式会社文化財サービスに委託された。

## 2 調査の経過（図2）

調査は2024年2月16日より現地作業に着手し、3月29日に全ての工程を終了した。調査区は文化財保護課の指示により北辺東西13.0m、南辺東西11.0m、南北25.0mに設定した。面積は294.0㎡である。

表土である現代耕作土を重機、床土層を人力により除去したところ、調査区北側にて地山層である褐色粘質シルト層を確認し、当該層を掘り込んで構築されている竪穴建物002を検出した。さらに当該遺構の南側において土師器片を含む遺物包含層を確認し、その上面で柱穴や土坑を検出したため、当層上面を第1面とした。第1面の遺構掘削および記録作業実施後、遺物包含層を除去し、

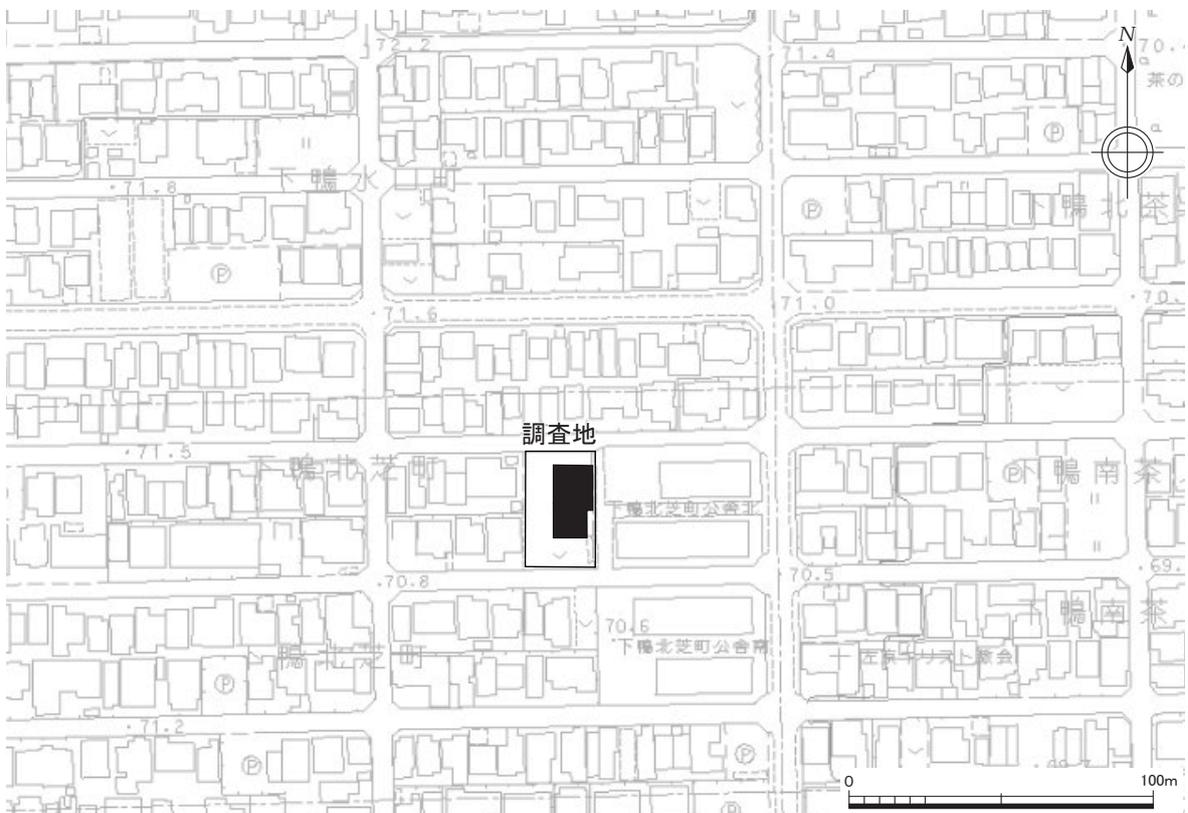


図1 調査地位置図（1：2,500）



1. 調査前 (南西から)



2. 重機掘削作業 (北から)



3. 第1面発掘作業風景 (北西から)



4. 第2面発掘作業風景 (南から)



5. 竪穴建物002検出状況 (北から)



6. 検証委員視察 (北から)



7. 埋め戻し作業 (南から)



8. 調査完了後 (南から)

図2 調査経過写真

第2面となる地山層上面で、柱穴群および竪穴建物003を検出した。第2面の遺構掘削および記録作業実施後、調査区西壁に沿って断割を行い、下層確認を行った。下層確認および調査区断面の記録作業実施後、埋め戻し作業を行い、調査を完了した。

なお、写真撮影機材は、35mmフルサイズの一眼レフデジタルカメラ、35mm白黒フィルムおよびカラーリバーサルフィルムを使用し、図面作成には手測りによる実測、トータルステーションによる図化、写真測量を併用した。

現地調査においては、適宜、文化財保護課の検査および指導を受けた。また、本調査の検証審査員である京都大学文学研究科附属文化遺産学・人文知連携センター助教伊藤淳史氏の現地視察・検証を受け、調査に対する助言を頂いた。

### 3 測量基準点の設置と地区割り（図3）

測量基準点は、VRS測量により調査地敷地内にT.1、T.2を設置した。基準点測量の成果は以下の通りである。

T.1 X = -105,002.880 m Y = -20,997.635 m H = 70.599 m

T.2 X = -104,975.296 m Y = -21,007.711 m H = 70.644 m

検出遺構および出土遺物の管理のため、調査区に対して3mグリッドを設定した。Y軸にアルファベットを西から東に、X軸にアラビア数字を北から南に順に付し、両者の組み合わせで地区名とした。地区名は、グリッドの北西角を基準とした。

### 4 整理作業・報告書作成

現地調査終了後、整理作業および報告書作成を行った。整理作業は写真、図面の整理と出土遺物の整理を並行して実施した。遺物の整理は洗浄、接合、実測、トレース、復元、写真撮影を行った。報告書の執筆は調査を担当した田邊貴教、編集作業は野地ますみ、興柁千春が担当し、その他整理作業は当社社員が分担して行った。

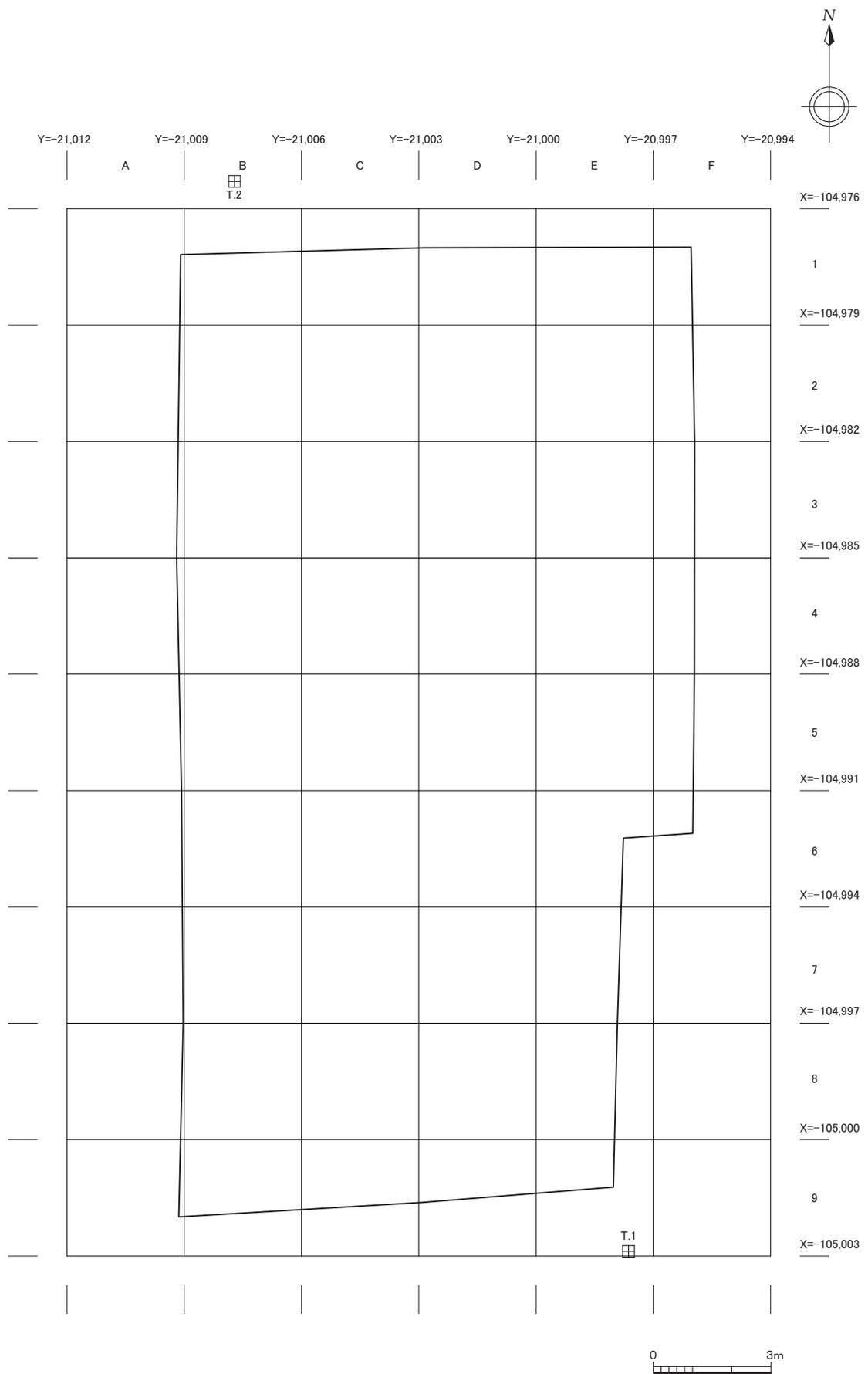


図3 調査区地区割り・基準点配置図 (1 : 150)

## 第Ⅱ章 位置と環境

### 1 位置と環境

今回の調査地である下鴨北芝町は京都盆地の北東部にあたり、賀茂川と高野川の合流地点から北に広がる逆三角形の平地に位置する。また、調査地の北には直線距離で430mの位置に深泥池が存在する。この辺り一帯は賀茂川が北山山間部から平野部へ流れ出て形成された扇状地である。また、上賀茂神社から現在の府立植物園を経て下鴨神社へと至る乙井川が近世まで存在したことが、『元禄十四年実測京都地図』から判り、「明治22年京阪地方仮製二万分の一地形図」にもその痕跡が描かれている。

当地は古代から中世にかけて上賀茂神社の社領である「上賀茂六郷」の一つ、岡本郷であった。近世には蓼倉郷下鴨村となったが、明治に入り愛宕郡下鴨村となり、大正7年に京都市上京区に、昭和4年には左京区に編入され現在に至る。

今回の調査地が含まれる植物園北遺跡は弥生時代から平安時代にかけての集落遺跡で、北端は神宮寺山の南裾、南端は植物園を含む京都府立大学の北側、東端は宝ヶ池公園南側、西端は上賀茂神社西側という大規模な遺跡である。また、遺跡範囲内には平安時代前期の芝本瓦窯跡を含み、遺跡範囲の南端は平安時代の集落遺跡である下鴨半木町遺跡と重複する。

#### 参考文献

- 菱田哲郎 「植物園北遺跡から見た上賀茂の古代」『京都を学ぶ【洛北編】』京都学研究会 2016年  
下中邦彦 「京都市の地名」『日本歴史地名大系27』平凡社 1979年

### 2 既往の調査（図4・5、表1）

調査地周辺で行われた調査としては、ノートルダム女子大学の新校舎建設に伴う1990年、2012年の調査（37・2）、東側の共同住宅等の建設に伴う2007年、2013年、2022年の調査（33・36・32）、医療施設建設に伴う1990年の調査（23）、北山ふれあいセンター建設に伴う2007年の調査（7）、府営公舎建設に伴う1993年、1995年の第13次・第16次調査（10・9）、京都コンサートホールの建設に伴う1991～1992年の調査（18）、歴彩館建設に伴う2011年、2012年の調査（17）が挙げられる。

ノートルダム女子大学の新校舎建設に伴う調査では、古墳時代初頭～後期までの竪穴建物が32棟、その東側の共同住宅等に伴う調査では、古墳時代初頭～後期の竪穴建物が15棟検出されている。医療施設に伴う調査では、古墳時代前期の竪穴建物が9棟、北山ふれあいセンターの建設に伴う調査では、弥生時代後期～古墳時代前期の竪穴建物が9棟、府営公舎建設に伴う調査では、古墳時代初頭～前期の竪穴建物が10棟確認されており、調査地一帯には弥生時代後期～古墳時代にかけての大規模な集落が形成されていたことが判明している。

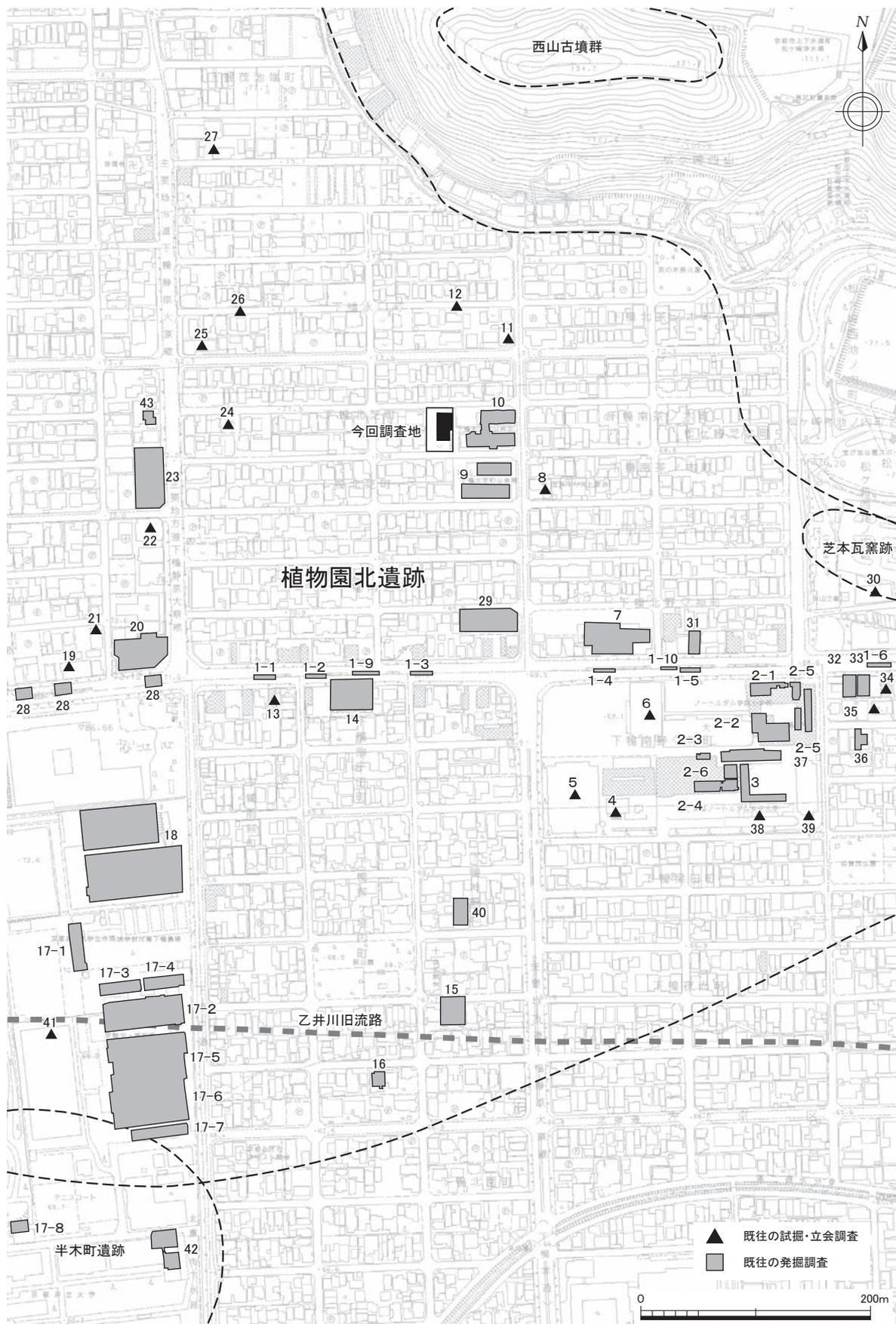


図4 既往調査位置図1 (1 : 5,000)

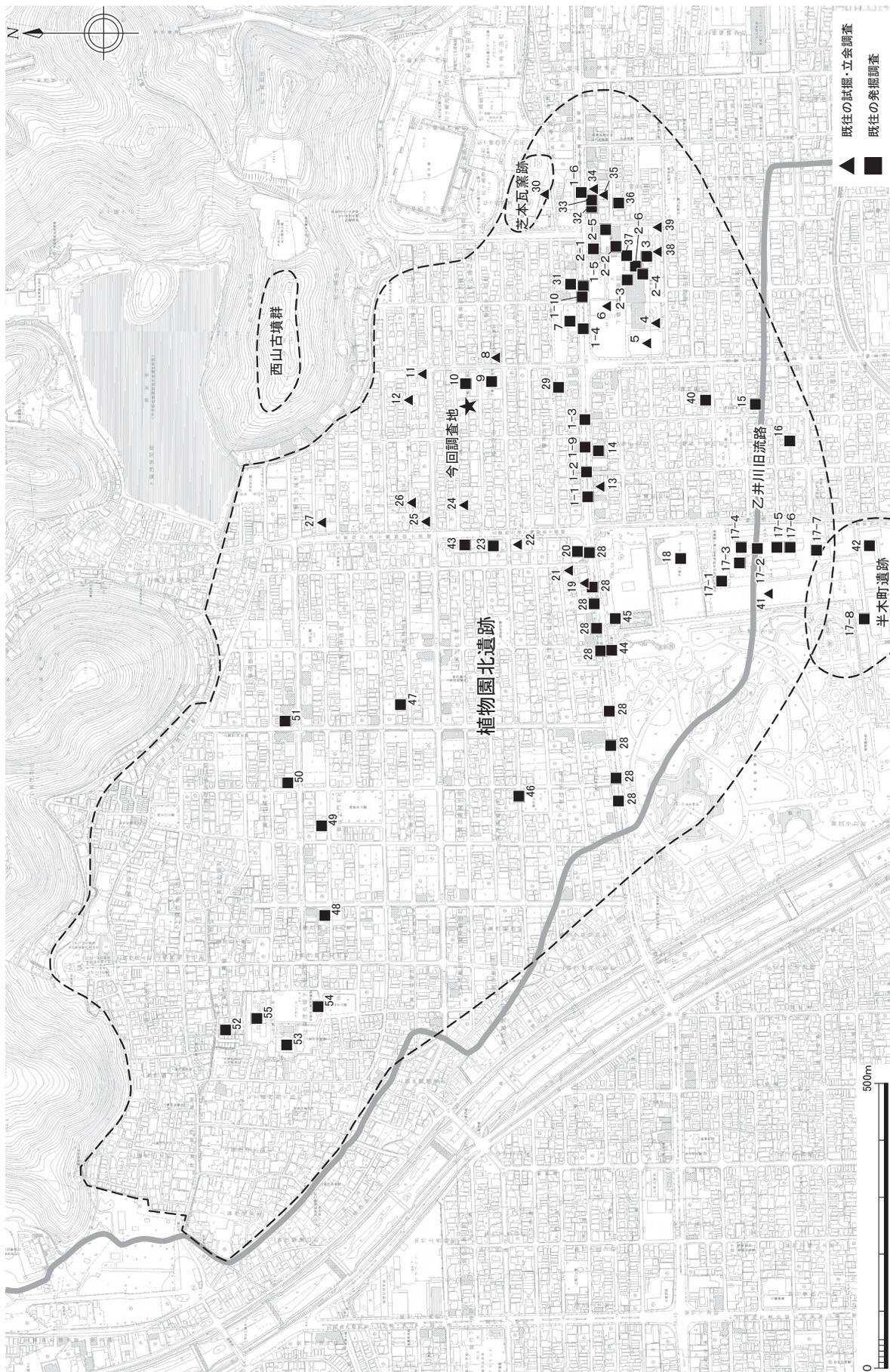


図5 既往調査位置図2 (1 : 10,000)

京都コンサートホールおよび歴彩館建設に伴う調査では、平安時代前期の三面庇を持つ大型掘立柱建物が確認され、当地を開発し、治めた有力氏族の居館と推定される。

特に府営公舎建築に伴う調査は今回の調査地に隣接する場所であり、本調査地でも同時期の竪穴建物の存在が想定された。

#### 参考文献

布川豊治 『植物園北遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2022-6 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2023年

表1 既往調査一覧表

	遺跡名	調査法	調査成果概要	掲載文献
1	植物園北遺跡	発掘	弥生時代後期の竪穴建物1。古墳時代の溝1。中世の溝1。近世の溝1。	高橋 潔・高 正龍「植物園北遺跡」『平成4年度 京都市埋蔵文化財調査概要』埋文研 1995年
2	植物園北遺跡	発掘	古墳時代の竪穴建物16、掘立柱建物1、土坑10、溝4。奈良時代の掘立柱建物2、土坑1。中世～近世の土坑7。	柏田有香ほか「植物園北遺跡」京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2012-24 埋文研 2013年
3	植物園北遺跡	発掘	古墳時代前期の竪穴建物1。	赤松佳奈「植物園北遺跡(10S134)」『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成27年度』京都市文化市民局 2016年
4	植物園北遺跡	試掘	顕著な遺構無し。	「植物園北遺跡 No.15」『京都市内遺跡試掘調査概報 平成14年度』京都市文化市民局 2003年
5	植物園北遺跡	試掘	顕著な遺構無し。	「植物園北遺跡 No.43」『京都市内遺跡試掘調査概報 平成4年度』京都市文化観光局 1993年
6	植物園北遺跡	試掘	顕著な遺構無し。	「植物園北遺跡 No.11」『京都市内遺跡試掘調査概報 平成15年度』京都市文化市民局 2004年
7	植物園北遺跡	発掘	弥生時代後期～古墳時代前期の竪穴建物9、土坑7。飛鳥時代の溝1。	平田 泰・モンベティ恭代「植物園北遺跡」京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2007-1 埋文研 2007年
8	植物園北遺跡	試掘	古墳時代前期の竪穴建物1、掘立柱建物1、溝1、土坑2。	馬瀬智光「植物園北遺跡 No.63 No.64 No.65」『京都市内遺跡試掘調査概報 平成6年度』京都市文化観光局 1995年
9	植物園北遺跡	発掘	弥生時代後期末～古墳時代初頭の竪穴建物4、集石遺構2。古墳時代前期の竪穴建物2、土坑6。	石尾政信・杉本厚典「植物園北遺跡第16次発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報 第70冊』府埋文 1996年
10	植物園北遺跡	発掘	弥生時代後期中頃～後半の竪穴建物1。弥生時代後期末～古墳時代初頭の竪穴建物2。弥生時代後期～古墳時代前期の土坑6。古墳時代初頭の集石遺構1。古墳時代前期の竪穴建物2。	岸岡貴英・長友朋子・杉本厚典「植物園北遺跡第13次発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報 第58冊』府埋文 1994年
11	植物園北遺跡	立会	古墳時代前期の竪穴建物1、落込み1。	堀内寛昭「植物園北遺跡(05RH276)」『京都市内遺跡立会調査概報 平成17年度』京都市文化市民局 2006年
12	植物園北遺跡	立会	古墳時代前期の竪穴建物1。	堀内寛昭「植物園北遺跡(05RH51)」『京都市内遺跡立会調査概報 平成14年度』京都市文化市民局 2003年
13	植物園北遺跡	立会	縄文時代中期の土坑1。弥生時代末期～古墳時代初期の竪穴建物1、掘立柱建物1。	高橋 潔「植物園北遺跡(96RH224)」『京都市内遺跡立会調査概報 平成8年度』京都市文化市民局 1997年
14	植物園北遺跡	発掘	時代不明の土坑1。	李 銀眞「植物園北遺跡」京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2016-5 埋文研 2017年
15	植物園北遺跡	立会	古墳時代後期の竪穴建物1。	吉本健吾「植物園北遺跡(06RH322)」『京都市内遺跡立会調査報告 平成18年度』京都市文化市民局 2007年
16	植物園北遺跡	発掘	飛鳥時代の竪穴建物1、掘立柱建物1、土坑2。	津々池惣一「植物園北遺跡」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成23年度』京都市文化市民局 2012年
17	植物園北遺跡・下鴨半木町遺跡	発掘	古墳時代前期の土坑2。古墳時代後期の竪穴建物1。飛鳥時代～奈良時代の竪穴建物6、土器棺墓2、土坑2、溝3。平安時代前期の竪穴建物1、掘立柱建物21、柵列1、土坑1。平安時代中期の掘立柱建物1。中世の掘立柱建物2、大型土坑1。近世の流路1、溝1。	中川和哉・高野陽子・黒坪一樹・筒井崇史・牧田梨津子「植物園北遺跡」『京都府遺跡調査報告集 第159冊』府埋文 2014年
18	植物園北遺跡	発掘	縄文時代の甕棺墓1。奈良時代の竪穴建物6、奈良時代～平安時代の掘立柱建物16。	久世康博「植物園北遺跡」『平成3年度 京都市埋蔵文化財調査概要』埋文研 1995年
19	植物園北遺跡	試掘	奈良時代～平安時代の溝1。	馬瀬智光「植物園北遺跡 No.63 No.64 No.65」『京都市内遺跡試掘調査概報 平成6年度』京都市文化観光局 1995年
20	植物園北遺跡	発掘	奈良時代～平安時代の掘立柱建物1。	百瀬正恒「植物園北遺跡」『平成9年度京都市埋蔵文化財調査概要』埋文研 1999年

	遺跡名	調査法	調査成果概要	掲載文献
21	植物園北遺跡	立会	飛鳥時代の堅穴状遺構1、溝状遺構1、落込み1。	近藤章子「植物園北遺跡(97RH202)」『京都市内遺跡立会調査概報 平成9年度』京都市文化市民局 1998年
22	植物園北遺跡	立会	古墳時代前期の堅穴建物2。平安時代の溝1、土坑1。	吉本健吾・竜子正彦「植物園北遺跡(99RH18)」『京都市内遺跡立会調査概報 平成11年度』京都市文化市民局 2000年
23	植物園北遺跡	発掘	古墳時代前期の堅穴建物9、土坑1、流路1。平安時代後期～鎌倉時代の掘立柱建物4。中世遺構の溝1、土坑1。	高橋 潔「植物園北遺跡」『平成2年度 京都市埋蔵文化財調査概要』埋文研 1994年
24	植物園北遺跡	立会	古墳時代前期の堅穴建物1。	「植物園北遺跡」『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和59年度』京都市文化観光局 1985年
25	植物園北遺跡	試掘	古墳時代前期の堅穴建物3。溝1。奈良時代後半の堅穴建物1。	「植物園北遺跡」『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和60年度』京都市文化観光局 1985年
26	植物園北遺跡	立会	古墳時代前期の堅穴建物4。	堀内寛昭「植物園北遺跡(02RH53)」『京都市内遺跡立会調査報告 平成14年度』京都市文化市民局 2003年
27	植物園北遺跡	立会	古墳時代前期の堅穴建物1。	吉本健吾「植物園北遺跡(06RH253)」『京都市内遺跡立会調査報告 平成18年度』京都市文化市民局 2007年
28	植物園北遺跡	発掘	縄文時代の甕棺墓1。弥生時代前期の柱穴。古墳時代後期の落込み1。飛鳥時代の柱穴。奈良時代～平安時代の溝状土坑1。	小森俊寛・長戸満男他「植物園北遺跡」『昭和61年度 京都市埋蔵文化財調査概要』埋文研 1989年
29	植物園北遺跡	発掘	古墳時代前期の掘立柱建物1(1区)。	清水早織・熊井亮介「植物園北遺跡(18S272)」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成30年度』京都市文化市民局 2019年
29	植物園北遺跡	発掘	古墳時代前期の掘立柱建物1、土坑1(2・3区)。	布川豊治「植物園北遺跡」京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2018-11 埋文研 2019年
30	植物園北遺跡・芝本瓦窯跡	立会	古墳時代の堅穴建物3	「植物園北遺跡」『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和59年度』京都市文化観光局 1985年
31	植物園北遺跡	立会	古墳時代初頭の堅穴建物1。古墳時代以後の土坑1	奥井智子「植物園北遺跡(18S434)」『京都市内遺跡詳細分布調査報告 令和元年度』京都市文化市民局 2020年
32	植物園北遺跡	発掘	古墳時代の溝1。飛鳥時代の堅穴建物1、溝1、柱穴1。奈良時代～平安時代の掘立柱建物1。	新田和央「植物園北遺跡(19S614)」『京都市内遺跡発掘調査報告 令和2年度』京都市文化市民局 2021年
33	植物園北遺跡	発掘	古墳時代前期の堅穴建物2、溝1、土坑1。飛鳥時代の溝1。奈良時代の堅穴建物1。平安時代以降の溝1。	山本雅和「植物園北遺跡1(06S753)」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成19年度』京都市文化市民局 2008年
34	植物園北遺跡	立会	古墳時代の堅穴建物2、土坑	辻 裕司・田中利律子「植物園北遺跡(12RH260)」『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成24年度』京都市文化市民局 2013年
35	植物園北遺跡	立会	古墳時代の堅穴建物6、柵1、土坑1、柱穴1。	吉崎 伸「植物園北遺跡(06RH234)」『京都市内遺跡立会調査報告 平成18年度』京都市文化市民局 2007年
36	植物園北遺跡	発掘	古墳時代の堅穴建物4、溝1、柱穴。中世の土坑群	吉崎 伸「植物園北遺跡(11S326)」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成24年度』京都市文化市民局 2013年
37	植物園北遺跡	発掘	古墳時代前期の堅穴建物8。古墳時代後期の堅穴建物3、土坑群、柱穴群。	長谷川行孝『ノートルダム女子大学構内遺跡発掘調査報告-植物園北遺跡-』ノートルダム女子大学 1991年
38	植物園北遺跡	立会	古墳時代前期の堅穴建物1。	吉本健吾「植物園北遺跡(10RH291)」『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成22年度』京都市文化市民局 2011年
39	植物園北遺跡	立会	古墳時代前期の堅穴建物3、飛鳥時代の堅穴建物1。	吉本健吾「植物園北遺跡(11RH256)」『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成23年度』京都市文化市民局 2012年
40	植物園北遺跡	立会	古墳時代後期の堅穴建物1、掘立柱建物1、土坑1。	黒須亜希子「植物園北遺跡(21S686)」『京都市内遺跡詳細分布調査報告 令和4年度』京都市文化市民局 2023年

	遺跡名	調査法	調査成果概要	掲載文献
41	植物園北遺跡	発掘	奈良時代～平安時代の溝、土坑、柱穴。	中居和志「植物園北遺跡」『京都府埋蔵文化財調査報告書』京都府教育委員会 2011年
42	半木町遺跡	発掘	平安時代～鎌倉時代の土坑、柱穴。	田代 弘「半木町遺跡発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報 第98冊』府埋文 2001年
43	植物園北遺跡	発掘	古墳時代初頭の竪穴建物2、溝6。	影山美智与・江崎周二郎「植物園北遺跡発掘調査報告書」株式会社地域文化研究所 2020年
44	植物園北遺跡	発掘	古墳時代の溝、平安時代中期の溝状遺構、鎌倉時代以降の溝、土坑、柱穴。	長戸満男・小森俊寛「植物園北遺跡2」『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』埋文研 1994年
45	植物園北遺跡	発掘	古墳時代前期の溝、掘立柱建物、柵、土坑、柱穴。	竹原一彦「植物園北遺跡第11次発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報 第54冊』府埋文 1993年
46	植物園北遺跡	発掘	平安時代の土坑3。	久世康博「植物園北遺跡(2)」『昭和57年度 京都市埋蔵文化財調査概要』埋文研 1984年
47	植物園北遺跡	発掘	鎌倉時代以降の道路。	家崎孝治・卜田健司『植物園北遺跡発掘調査概報 昭和57年度』京都市文化観光局 1983年
48	植物園北遺跡	発掘	弥生時代後期の竪穴建物2、古墳時代前期の竪穴建物2、土坑、古墳時代後期の溝。	辻 裕司・木下保明『植物園北遺跡発掘調査概報 昭和59年度』京都市文化観光局 1985年
49	植物園北遺跡	発掘	弥生時代後期～古墳時代後期の流路、古墳時代前期の竪穴建物、古墳時代中期の竪穴建物。	近藤章子・菅田 薫「植物園北遺跡」『平成12年度 京都市埋蔵文化財調査概要』埋文研 2003年
50	植物園北遺跡	発掘	古墳時代中期の竪穴建物2、室町時代の土坑。	柏田有香『植物園北遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2013-4 埋文研 2013年
51	植物園北遺跡	発掘	奈良時代の溝、土坑、平安時代の溝、土坑、柱列、掘立柱建物3。	柏田有香「植物園北遺跡2」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成19年度』京都市文化市民局 2008年
52	植物園北遺跡	発掘	古墳時代前期の竪穴建物2、古墳時代後期の竪穴建物8、鎌倉時代以降の井戸、溝、柱穴群。	高 正龍ほか『植物園北遺跡発掘調査概報 平成元年度』京都市文化観光局 1990年
53	植物園北遺跡	発掘	弥生時代～古墳時代の流路、古墳時代の竪穴建物3、平安時代の掘立柱建物、鎌倉時代以降の井戸、土坑、柱穴。	久世康博・津々池惣一「植物園北遺跡I」『平成5年度 京都市埋蔵文化財調査概要』埋文研 1996年
54	植物園北遺跡	発掘	古墳時代の掘立柱建物2、自然流路、室町時代の土坑、柱穴。	鈴木廣司、津々池惣一『植物園北遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2002-14 埋文研 2002年
55	植物園北遺跡	発掘	古墳時代の竪穴建物1、平安時代の掘立柱建物1、鎌倉時代以降の土坑。	布川豊治『植物園北遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2022-6 埋文研 2023年

埋文研→公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 府埋文→財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

## 第Ⅲ章 調査成果

### 1 基本層序（図版1）

基本層序は6層に分けられる。

第1層は灰黄褐色粘質シルトからなる現代耕作土である。

第2層は褐灰色粘質シルトと褐色粘質シルトからなる近世以降の床土である。一部は削平により失われている。

第3層は黒褐色粘質シルトからなる遺物包含層である。古墳時代初頭～前期頃の土師器片を含み、以後の遺物は見られなかった。当層は第4層の直上に堆積しているが、第4層以下の地山層の隆起により、調査区北側で消滅する。その範囲は図版2に示した破線のラインの南である。当層上面において遺構を検出したため、第1面とした。

第4層は褐色粘質シルトからなる地山層である。第4層も第5層、第6層の隆起により調査区北西端で消滅する。当層上面において竪穴建物等の遺構を検出したため、第2面とした。

第5層は褐色粘質シルトからなる地山層である。小石・礫を多く含む。

第6層は暗褐色粘質シルトからなる地山層で、砂・小石・礫を多く含む。

### 2 検出遺構（表2）

今回の調査では、近世の区画溝、平安時代後期～末期の土坑、柱穴、古墳時代前期以降の柱穴、古墳時代初期の竪穴建物、柱穴を検出した。

表2 遺構概要表

時代	遺構	備考
近世	溝 001	
平安時代後期～末期	土坑 010・011、柱穴 020	
古墳時代前期以降	柱穴 004～009、012～019、021～033	
古墳時代初期	竪穴建物 002（溝 066、柱穴 062～065、土坑 067、068）、竪穴建物 003（溝 060、柱穴 061）、柱穴 034～059	

(1) 第1面（図版2、図版10～12）

(I) 近世の遺構

〔溝〕

#### 溝001

D1～D9で検出した。規模は、南北長約24.3m、東西幅0.50m、深さは北端0.10m、南端0.20mを測る。底面は丸みを帯びており、ほぼ一直線に伸びる調査区を南北に貫く溝である。北端と南端との底面の比高差は0.10mほどであり、南が低くなっている。埋土は灰褐色粘質シルトで礫を含む。18世紀～19世紀頃の所産と考えられる染付（4）、陶器が出土した。近世以降の耕作地に伴う区画の溝と考えられる。

(Ⅱ) 平安時代後期～末期の遺構

〔土坑〕

土坑010 (図版3、図版11-2)

E6・F6で検出した。規模は、東西長1.00m、南北長1.00m、深さ0.30mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の土坑である。柱穴015を切っている。埋土は褐色シルトで礫を含む。土師器皿Ac(5)が出土した。4B段階に属し11世紀半ば～後半頃の所産と考えられる。

土坑011 (図版3、図版12-1)

F5で検出した。規模は、東西長1.20m以上、南北長1.20m、深さ0.10mで、底面が丸みを帯びている、平面楕円形の土坑である。埋土は黒褐色粘質シルトとにぶい黄褐色粘質シルトとの混じりで、小石を含む。土師器皿N(6)、Ac(7)が出土した。4B段階に属し11世紀半ば～後半頃の所産と考えられる。

〔柱穴〕

柱穴020 (図版3、図版12-2)

E3で検出した。規模は、東西長0.60m、南北長0.70m、深さ0.28mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。底面より根石と思われる円弧状の礫群を検出した。埋土は褐灰色粘質シルトで小石を含む。根石の下より土師器皿Ac(8)が出土した。4C段階に属し11世紀後半～12世紀初頭頃の所産と考えられる。

(Ⅲ) 古墳時代前期以降の遺構

〔柱穴〕

柱穴004

E1で検出した。規模は、東西長0.40m、南北長0.40m、深さ0.10mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含む。遺物の出土は無かった。

柱穴005

E1で検出した。規模は、東西長0.40m、南北長0.45m、深さ0.30mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトである。古墳時代の土師器の細片が出土した。埋没時の混入と思われる。

柱穴006

E2で検出した。規模は、東西長0.30m、南北長0.30m、深さ0.16mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含む。遺物の出土は無かった。

#### 柱穴007

E 2で検出した。規模は、東西長0.35 m、南北長0.35 m、深さ0.28 mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含む。古墳時代の土師器の細片が出土した。埋没時の混入と思われる。

#### 柱穴008

F 2で検出した。規模は、東西長0.40 m、南北長0.40 m、深さ0.26 mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含む。古墳時代の土師器の細片が出土した。埋没時の混入と思われる。

#### 柱穴009

D 3で検出した。規模は、東西長0.25 m、南北長0.20 m、深さ0.06 mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。竪穴建物002を切っている。埋土は褐灰色粘質シルトである。遺物の出土は無かった。

#### 柱穴012

E 5で検出した。規模は、東西長0.30 m、南北長0.30 m、深さ0.20 mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含む。遺物の出土は無かった。

#### 柱穴013

E 5で検出した。規模は、東西長0.30 m、南北長0.30 m、深さ0.05 mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含む。遺物の出土は無かった。

#### 柱穴014

E 5で検出した。規模は、東西長0.40 m、南北長0.40 m、深さ0.10 mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで礫を含む。遺物の出土は無かった。

#### 柱穴015

E 5で検出した。規模は、東西長0.65 m、南北長0.60 m、深さ0.10 mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。柱穴016を切り、土坑010に切られている。埋土は黒褐色粘質シルトで礫、小石を含む。古墳時代の土師器の細片が出土した。埋没時の混入と思われる。

#### 柱穴016

E 6で検出した。規模は、東西長0.30 m、南北長0.30 m、深さ0.10 mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。柱穴015に切られている。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含む。古墳時代の土師器の細片が出土した。埋没時の混入と思われる。

#### 柱穴017

E 4 で検出した。規模は、東西長0.30 m、南北長0.30 m、深さ0.04 mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトと灰褐色粘質シルトとの混じりで小石を含む。遺物の出土は無かった。

#### 柱穴018

E 4 で検出した。規模は、東西長0.40 m、南北長0.40 m、深さ0.04 mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトと灰褐色粘質シルトとの混じりで小石を含む。遺物の出土は無かった。

#### 柱穴019

C 4 で検出した。規模は、東西長0.40 m、南北長0.45 m、深さ0.04 mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含む。遺物の出土は無かった。

#### 柱穴021

E 3 ・ E 4 で検出した。規模は、東西長0.40 m、南北長0.40 m、深さ0.10 mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含む。遺物の出土は無かった。

#### 柱穴022

E 4 で検出した。規模は、東西長0.30 m、南北長0.30 m、深さ0.10 mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトである。遺物の出土は無かった。

#### 柱穴023

E 4 で検出した。規模は、東西長0.45 m、南北長0.50 m、深さ0.06 mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトと灰褐色粘質シルトとの混じりで小石を含む。遺物の出土は無かった。

#### 柱穴024

B 5 で検出した。規模は、東西長0.40 m、南北長0.40 m、深さ0.05 mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石、礫を含む。遺物の出土は無かった。

#### 柱穴025

C 5 で検出した。規模は、東西長0.40 m、南北長0.40 m、深さ0.07 mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含む。遺物の出土は無かった。

#### 柱穴026

C5で検出した。規模は、東西長0.40m、南北長0.40m、深さ0.07mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトと灰褐色粘質シルトとの混じりで小石を含む。遺物の出土は無かった。

#### 柱穴027

C5で検出した。規模は、東西長0.40m、南北長0.45m、深さ0.08mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含む。遺物の出土は無かった。

#### 柱穴028

C5で検出した。規模は、東西長0.40m、南北長0.40m、深さ0.10mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含む。遺物の出土は無かった。

#### 柱穴029

B8で検出した。規模は、東西長0.30m、南北長0.40m、深さ0.10mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含む。遺物の出土は無かった。

#### 柱穴030

B8で検出した。規模は、東西長0.25m、南北長0.20m、深さ0.06mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含む。遺物の出土は無かった。

#### 柱穴031

D9で検出した。規模は、東西長0.30m、南北長0.30m、深さ0.10mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は灰黄褐色シルトで小石を含む。遺物の出土は無かった。

#### 柱穴032

F3で検出した。規模は、東西長0.30m、南北長0.30m、深さ0.10mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含む。遺物の出土は無かった。

#### 柱穴033

E3で検出した。規模は、東西長0.35m、南北長0.35m、深さ0.05mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含む。遺物の出土は無かった。

第1面で検出した柱穴は、柱穴004～008、020、021、032、033が地山層である第4層から、柱穴012～019、022～031が第3層から掘り込まれている。これらの柱穴は、建物としてのプランを

復元することができなかった。埋土中から出土した遺物が土師器のみで須恵器を含まないこと、古墳時代初期～前期頃の遺物を包含する第3層を遺構ベース層としていることから、古墳時代前期以降の遺構と考えられる。

(2) 第2面(図版4～7、図版13～18)

〔竪穴建物〕

竪穴建物002(図版5、図版6、図版14-2～17)

B1～F1、B2～F2、B3～F3の範囲で検出した。規模は、一辺が6.80mの方形に復元でき、真北に対し西に約45°の傾きがある。北隅部分は調査区外である。検出面から床面までの深さは0.20mで、埋土は2層に分かれる。第1層は灰褐色粘質シルトで、明赤褐色シルトブロックを含む。北西側は礫を多量に含み、埋立ての際に地固め目的で入れたものと思われる。第2層は黒褐色粘質シルトで、明赤褐色シルトブロックを含む。第1層、第2層とも埋立ての際に一括廃棄されたと思われる遺物を多量に含む。埋土を除去したところ、柱穴062、063、064、065、溝066、土坑067、068を検出した。また、竪穴建物の中央部分に、厚さ約0.05mを測る貼床の痕跡を確認した。

柱穴062はD1で検出した。規模は、東西長0.25m、南北長0.30m、深さ0.25mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで、土師器の細片が出土した。柱穴063はD2、E2で検出した。規模は、東西長0.35m、南北長0.35m、深さ0.40mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含む。遺物の出土は無かった。柱穴064はD3で検出した。規模は、東西長0.30m、南北長0.30m、深さ0.35mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含み、土師器の細片が出土した。柱穴065はC2で検出した。規模は、東西長0.30m、南北長0.30m、深さ0.10mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含み、土師器の細片が出土した。

柱穴062、063、064、065は竪穴建物002の支柱穴であるが、柱穴062-063、063-064の柱間はそれぞれ約3.2mあるのに対し、柱穴062-065の柱間は約2.0mであり、支柱穴のプランは方形を成してはいない。

溝066は壁際を巡る壁溝である。幅0.20～0.30m、深さ0.10mで、壁際に沿って途切れることなく一周している。土坑067が位置する箇所は若干壁と共に外側に張り出しており、入口を意識したものと思われる。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含む。土師器の細片が少量出土したが、溝066埋没後に埋納されたと思われる遺物が出土している。B2では壺(19)、C1では小型器台(20)が出土した(図版17)。

土坑067(図版6、図版16)はD3、E3で検出した。2段構造であり、上段は長辺1.10m、短辺0.87m、深さ0.10mの平面長方形で底面は平坦である。下段は東西長0.65m、南北長0.65m、深さ0.65mの平面円形で、底面は丸みを帯びている。土坑067と竪穴建物002の壁との間には溝066が通るが、切り合うことはなく幅0.06m程度の境を設けている。埋土は上段が黒褐色粘質シルトで

小石を含む。下段が黒褐色粘質シルトで礫、小石を含み、当遺構は下段を貯蔵用、上段を板などの蓋で塞ぐための段とした貯蔵穴と考えられる。下段は埋め立て後に改めて掘削された痕が認められ、内部より土師器の甕(24・25)が出土したことから、埋納された可能性がある。さらに下段の埋土直上より土師器の甕(21)が1個体分出土し、上段底面からも小型器台(22)や鉢(23)などが出土した。すなわち、竪穴建物002の廃絶時、まず下段を埋めた後に再度掘削して土師器甕を埋納した後、上段に土師器甕、小型器台、鉢等を埋納しており、何らかの意図が感じられる。

土坑068はD2で検出した。規模は、東西長0.75m、南北長0.80m、深さ0.10mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の土坑である。竪穴建物002のほぼ中央に位置し、一部に被熱痕が見られることから炉跡と考えられる。埋土は黒褐色粘質シルトで赤褐色の焼土ブロックを含み、土師器の細片が出土した。被熱痕は一部分であり、被熱による硬化も見られないことから、ごく短期間の使用だったと考えられる。

### 竪穴建物003(図版7、図版18)

D9、E8、E9で検出した。規模は、東西長2.15m、南北長0.60mであり、北西隅の角部分にあたる。隅部の角度は125°の鈍角であることから、竪穴建物003の平面形は多角形と考えられる。検出面から床面までの深さは約0.3mで、埋土は3層に分かれる。第1層は黒褐色粘質シルトで黄褐色シルトブロックを含む。第2層は黒褐色粘質シルトで小石を含む。第3層は黒褐色粘質シルトで小石を含む。いずれも古墳時代の土師器片を少量包含していた。第3層は西端部分のみに分布し、西側から東側へ向かって斜めに堆積している。第2層はその影響を受けた形で西端部分だけが斜めに堆積している。埋土を除去したところ、溝060、柱穴061を検出した。

溝060は壁際を巡る壁溝である。幅0.30m、深さ0.06mで底面は丸みを帯びている。底面では、壁面の崩落を防ぐ板材を留めていた杭痕と思われる小穴を8基検出した。埋土は黒褐色粘質シルトである。

柱穴061はE9で検出した。規模は、東西長0.30m、南北長0.15m、深さ0.40mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。柱穴061の南半分は調査区外である。埋土は黒褐色粘質シルトである。古墳時代の土師器の細片が少量出土した。主柱穴と思われる。

#### [柱穴]

竪穴建物に伴わない柱穴である。

#### 柱穴034

B4で検出した。規模は、東西長0.20m、南北長0.20m、深さ0.05mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含む。遺物の出土は無かった。

#### 柱穴035

B4で検出した。規模は、東西長0.20m、南北長0.20m、深さ0.10mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。黒褐色粘質シルトで小石を含む。遺物の出土は無かった。

#### 柱穴036

C 4 で検出した。規模は、東西長0.20 m、南北長0.20 m、深さ0.10 mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含む。遺物の出土は無かった。

#### 柱穴037

B 4 で検出した。規模は、東西長0.20 m、南北長0.20 m、深さ0.15 mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含む。遺物の出土は無かった。

#### 柱穴038

B 4、B 5 で検出した。規模は、東西長0.25 m、南北長0.25 m、深さ0.10 mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は灰褐色粘質シルトで小石を含む。遺物の出土は無かった。

#### 柱穴039

B 5 で検出した。規模は、東西長0.20 m、南北長0.20 m、深さ0.20 mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含む。遺物の出土は無かった。

#### 柱穴040

B 5、B 6 で検出した。規模は、東西長0.30 m、南北長0.30 m、深さ0.20 mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトである。遺物の出土は無かった。

#### 柱穴041

B 6 で検出した。規模は、東西長0.30 m、南北長0.25 m、深さ0.20 mで、底面は丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石、炭化物を含む。古墳時代の土師器の細片が出土した。

#### 柱穴042

B 6 で検出した。規模は、東西長0.30 m、南北長0.30 m、深さ0.20 mで、底面は丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトである。遺物の出土は無かった。

#### 柱穴043

B 6 で検出した。規模は、東西長0.30 m、南北長0.30 m、深さ0.20 mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトである。古墳時代の土師器の細片が出土した。

#### 柱穴044

B 5 で検出した。規模は、東西長0.20 m、南北長0.20 m、深さ0.10 mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を多く含む。遺物の出土は無かった。

#### 柱穴045

E 5で検出した。規模は、東西長0.35 m、南北長0.30 m、深さ0.20 mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含む。遺物の出土は無かった。

#### 柱穴046

E 6で検出した。規模は、東西長0.20 m、南北長0.20 m、深さ0.15 mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含む。遺物の出土は無かった。

#### 柱穴047

D 6で検出した。規模は、東西長0.15 m、南北長0.15 m、深さ0.10 mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含む。遺物の出土は無かった。

#### 柱穴048

E 6で検出した。規模は、東西長0.20 m、南北長0.20 m、深さ0.15 mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含む。古墳時代の土師器の細片が出土した。

#### 柱穴049

D 6で検出した。規模は、東西長0.20 m、南北長0.20 m、深さ0.10 mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含む。遺物の出土は無かった。

#### 柱穴050

D 6で検出した。規模は、東西長0.20 m、南北長0.20 m、深さ0.10 mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトである。古墳時代の土師器の細片が出土した。

#### 柱穴051

D 6で検出した。規模は、東西長0.25 m、南北長0.25 m、深さ0.10 mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトである。古墳時代の土師器の細片が出土した。

#### 柱穴052

E 6で検出した。規模は、東西長0.25 m、南北長0.25 m、深さ0.10 mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトである。遺物の出土は無かった。

#### 柱穴053

E 8で検出した。規模は、東西長0.20 m、南北長0.20 m、深さ0.15 mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトである。遺物の出土は無かった。

#### 柱穴054

C 7で検出した。規模は、東西長0.25 m、南北長0.30 m、深さ0.10 mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトである。古墳時代の土師器の細片が出土した。

#### 柱穴055

D 7で検出した。規模は、東西長0.20 m、南北長0.20 m、深さ0.17 mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトである。古墳時代の土師器の細片が出土した。

#### 柱穴056

C 7で検出した。規模は、東西長0.20 m、南北長0.20 m、深さ0.10 mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含む。古墳時代の土師器の細片が出土した。

#### 柱穴057

C 7で検出した。規模は、東西長0.20 m、南北長0.20 m、深さ0.10 mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトで小石を含む。古墳時代の土師器の細片が出土した。

#### 柱穴058

C 7で検出した。規模は、東西長0.20 m、南北長0.20 m、深さ0.10 mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトである。遺物の出土は無かった。

#### 柱穴059

B 8で検出した。規模は東西長0.20 m、南北長0.25 m、深さ0.15 mで、底面が丸みを帯びている、平面円形の柱穴である。埋土は黒褐色粘質シルトである。遺物の出土は無かった。

第2面で検出した竪穴建物内以外の柱穴は、いずれも古墳時代初期～前期の包含層の下から検出し、複数の柱穴から古墳時代の土師器片が出土したことから、古墳時代初期と考えられるが、建物としてのプランを復元することはできなかった。

### 3 出土遺物

遺物はコンテナで9箱分出土した(表3)。多くが古墳時代の土師器片であり、竪穴建物の埋土、第3層、第1面遺構の埋土からである。第1面の土坑からは平安時代後期～末期の土師器が出土している。また、近世以降の溝および第2層からは、古墳時代末期の須恵器、平安時代前期の灰釉陶器、平安時代末期～鎌倉時代の輸入白磁、近世染付が出土している。

なお、重機掘削中に出土した脇差の刀身1振、鞘1点、刀装具5点(鏢1点・ハバキ1点・切羽2点・縁金1点)は附章にて報告する。

表3 遺物概要表

時代	内容	コンテナ数	Aランク点数	Bランク点数	Cランク箱数
古墳時代初期	土師器、石製品		土師器18点、石製品2点		
古墳時代末期	須恵器		須恵器1点		
平安時代前期	灰釉陶器		灰釉陶器1点		
平安時代後期～末期	土師器		土師器4点		
平安時代末期～鎌倉時代	輸入白磁		輸入白磁1点		
江戸時代	染付、金属製品、木製品		染付1点、脇差刀身1点、鏢1点、刀装具3点、鞘1点		
合計		9箱	34点(4箱)	0点	5箱

\* コンテナ箱数は、整理段階で2箱増加した。

#### (1) 遺構検出中出土遺物(図版8、図版19-1)

第1面の遺構検出中に、近世の床土層である第2層内から出土した遺物である。須恵器杯蓋(1)、灰釉陶器皿(2)、輸入白磁椀(3)が出土した。1は口径17.4cm、残存器高2.0cm。内面・外面ともロクロナデを施し、口縁端部に杯身を受けるためのかえりが付く。TK217型式に属し、7世紀半ば頃の所産と考えられる。2は底径6.8cm、残存器高1.3cm、外面から内面にかけてロクロナデ、底部に回転ケズリを施し、高台は貼り付けである。内面に灰釉を施す。9世紀～10世紀頃の所産と考えられる。3は底径6.6cm、残存器高2.1cm、内面はロクロナデ、外面は回転ケズリを施し、高台は削り出しによる。内面は全体的に、外面は高台脇まで施釉し、内面は重ね焼きのため蛇の目状に釉を剥ぐ。福建省近辺の製品で、12世紀末～13世紀の所産と考えられる。

#### (2) 第1面遺構出土遺物

##### (I) 近世の遺構

##### 溝001(図版8、図版19-1)

染付の筒茶碗(4)が出土した。口径6.6cm、残存器高3.6cm。内面・外面とも呉須にて絵付け後、施釉する。外面は花を意匠したと思われる文様を描き、内面は口縁付近に二重の線を描く。瀬戸美濃系の陶胎染付と思われ、19世紀頃の所産と考えられる。

(Ⅱ) 平安時代後期～末期の遺構

土坑010 (図版8、図版19-1)

土師器皿A c (5) が出土した。口径10.6cm、器高1.0cm。口縁は強く屈曲して内傾し、端部は丸く仕上げる。口縁から内面にかけてヨコナデを施し、底部はオサエを施す。4 B段階に属し、11世紀半ば～後半頃の所産と考えられる。

土坑011 (図版8、図版19-1)

土師器皿N (6)、土師器皿A c (7) が出土した。6は口径15.8cm、残存器高3.0cm。口縁はやや外反し肥厚する。口縁から内面にかけてナデを施し、底部はオサエを施す。4 B段階に属し、11世紀半ば～後半頃の所産と考えられる。7は口径11.6cm、残存器高0.8cm、口縁は強く屈曲して内傾し、端部は丸く仕上げる。口縁から内面にかけてヨコナデを施し、底部はオサエを施す。4 B段階に属し、11世紀半ば～後半頃の所産と考えられる。

柱穴020 (図版8、図版19-1)

土師器皿A c (8) が出土した。口径9.7cm、器高1.2cm。口縁は強く屈曲して内傾し、端部は丸く仕上げる。口縁から内面にかけてヨコナデを施し、底部はオサエを施す。4 C段階に属し、11世紀後半～12世紀前半の所産と考えられる。

(3) 第3層出土遺物 (図版8、図版19-1)

土師器甕 (9・10) が出土した。9は口径20.0cm、残存器高4.8cm。口縁は外反し、くびれ上部に僅かな段差を施し端部は丸く仕上げる。口縁から内面にかけてナデを施す。外面は摩滅のため、調整は不明瞭である。庄内式期の所産と考えられる。10は底径4.7cm、残存器高2.6cm。内面・外面ともナデを施し、底部は凹ませる。山城V-5様式の所産と考えられる。

第3層からは庄内式期までの土師器しか出土していないが、同じ庄内式期の土師器が出土した竪穴建物003の上層に当たるため、古墳時代初期～前期頃に整地された際に混入したものと思われる。

(4) 第2面遺構出土遺物

竪穴建物002 (図版8、図版9、図版19-2、20-1)

埋土上層から土師器甕 (11) が出土した。11は口径13.2cm、残存器高8.9cm。口縁は外反し端部は丸く仕上げる。口縁はヨコナデを施し、体部はヒモ造りにて成形した後、内面はオサエ、外面はハケを施す。庄内式期の所産と考えられる。

埋土下層から土師器小型器台 (12)・高杯 (13)・台付鉢 (14) が出土した。12は残存器高5.7cm。内面はナデとヨコ方向のケズリ、外面はミガキを施し、円形のスカシを施す。庄内式期の所産と考えられる。13は残存器高7.5cm。内面はナデを施し杯との接合部分はユビオサエを施す。外面は摩滅のため調整は不明瞭である。庄内式期の所産と考えられる。14は残存器高2.8cm。内面・外面と

もナデを施し、高台部分は貼付のちユビオサエを施す。庄内式期の所産と考えられる。

床面から土師器甕（15）・脚付壺（16）・石製品（17）が出土した。15は口径14.0cm、残存器高6.0cm。口縁は外反し端部は丸く仕上げる。口縁はヨコナデを施し、内面・外面ともハケを施す。頸部内面はケズリを施す。庄内式期の所産と考えられる。16は残存器高7.1cm。内面・外面ともナデを施す。底部に孔があり、一部に剥離痕があることから、脚を接続するための孔と思われる。庄内式期の所産と考えられる。17は全長27.4cm、幅13.0cm。厚さ7.6cm、重量3700gの砂岩製で、表面は全面、裏面は一部使用痕がある。石皿のように使用された可能性が考えられる。

柱穴063から土師器甕（18）が出土した。18は残存器高10.0cm。頸部はヨコナデを施し、体部内面はナデ、外面はタタキを施す。内面に当て具痕が残る。庄内式期の所産と考えられる。

溝066から土師器壺（19）、小型器台（20）が出土した。19は口径15.6cm、底径3.8cm。口縁は外反し端部はやや丸く仕上げる。口縁はヨコナデを施し、オサエのち横方向のハケ、外面は横方向のハケを施す。内面にユビオサエ痕が残る。底部はオサエを施し、やや凹ませる。庄内式期の所産と考えられる。20は底径10.7cm、残存器高6.6cm。内面・外面ともナデを施すが、摩滅のため不明瞭である。円形のスカシを4ヶ所施す。庄内式期の所産と考えられる。

土坑067上層から土師器甕（21）、小型器台（22）、鉢（23）、土坑067下層から土師器甕（24・25）が出土した。21は口径17.8cm、残存器高21.5cm、口縁は外反し端部はやや丸く仕上げる。口縁はヨコナデを施し、内面は横方向のハケ、外面は斜め方向のハケを施す。庄内式期の所産と考えられる。22は底径8.3cm、残存器高4.7cm、脚部端は丸く仕上げている。内面は横方向のミガキ、外面は縦方向のミガキを施す。庄内式期の所産と考えられる。23は口径10.6cm、底径4.2cm、器高5.7cm、口縁は立ち上がり、端部は丸く仕上げる。口縁はヨコナデを施し、内面は横方向のハケ、外面は縦方向のハケを施す。底部は指によるツマミ出しとユビオサエにて台を成形する。庄内式期の所産と考えられる。24は口径16.6cm、残存器高5.1cm、口縁は外反し端部は丸く仕上げる。口縁はヨコナデを施し、内面・外面とも摩滅や剥離により調整は不明瞭である。庄内式期の所産と考えられる。25は口径17.4cm、残存器高5.4cm、口縁は外反し端部は丸く仕上げる。内面・外面とも摩滅により調整は不明瞭である。庄内式期の所産と考えられる。

#### 豎穴建物003（図版9、図版20－2）

埋土上層から土師器甕（26）が出土した。26は口径14.7cm、残存器高2.6cm、口縁は外反し端部は丸く仕上げる。口縁はヨコナデを施し、内面はナデ、外面は斜め方向のハケを施す。庄内式期の所産と考えられる。

埋土下層より土師器小型丸底壺（27）、磨石（28）が出土した。27は底径2.6cm、残存器高3.6cm。内面は摩滅のため不明瞭、外面はハケのちナデを施す。庄内式期の所産と考えられる。28は全長5.4cm、幅4.7cm、厚さ4.4cm、重量140.8gの砂岩製で、一部に使用痕がある。

## 第Ⅳ章 まとめ

当調査地は、弥生時代後期～平安時代までの集落遺跡である植物園北遺跡の範囲内に位置し、調査地の東側と南東側で行われた第13次調査、第16次調査（図7）において、弥生時代後期～古墳時代前期までの竪穴建物10棟を検出している。これらのことから、当調査地でも竪穴建物の存在が想定された。調査にあたり、第3層上面を第1面とし、その直下に堆積する地山層上面を第2面とした。ただし、第3層の直上に堆積する第2層から掘り込んでいる溝001も第1面の遺構として扱った。その結果、第1面では近世以降の溝、平安時代後期～末期の土坑、柱穴、古墳時代前期以降の柱穴を検出し、第2面では古墳時代初期の竪穴建物、柱穴群を検出した。以下、各面の遺構について述べる。

### 1 各面の検出遺構について

〔第1面〕（図版2）

〔近世〕

近世の遺構としては溝001を検出した。幅0.50mの溝で傾きはほぼ無く、調査地を南北に通る。床土である第2層を掘り込む形で作られており、埋土中から18世紀～19世紀頃の染付が出土した。第2層からは18世紀頃の染付椀が出土しており、耕作地として利用されていた近世に区画の溝として掘られたものと思われる。

〔平安時代後期～末期〕

平安時代後期～末期の遺構としては、土坑010、011、柱穴020を検出した。土坑010、011は径約1.0mの土坑であるが、性格は不明である。柱穴020は径約0.6mで底面に根石と思われる礫群を検出した。各遺構からは、いわゆる「て」の字状口縁の土師器皿が出土しており、特に柱穴020では礫群の下から出土した。

なお、第13次調査では、平安時代後期頃と思われる掘立柱建物が2棟検出されており、柱穴020もこれらの掘立柱建物との関連を想定することも可能であるが、検出したのは1基のみであり、断言はできない。

〔古墳時代前期以降〕

古墳時代前期以降の遺構としては、28基の柱穴群を検出した。これらは径約0.3～0.4mの柱穴であるが、建物としてのプランを復元することはできなかった。遺物は少なく、細片ばかりであるが、土師器のみで須恵器等の遺物が見られないこと、古墳時代初期～前期頃までの遺物を含む層を掘り込んでいることから、古墳時代前期以降の遺構と考えられる。

以上のように第1面では平安時代後期～末期の土坑010、011、柱穴020を確認したが、鎌倉時代～室町時代の遺構は確認できなかった。第1面の直上に堆積する第2層は近世以降の床土であることから、中世では大きな土地利用はされなかったものと思われる。

#### 〔第3層〕（図版1）

第1面を形成する遺物包含層である。第4層の直上に堆積するが、第4層以下が調査区北側で上昇しているため、竪穴建物002の手前で消滅する。庄内式期の土師器を包含し、それ以降の遺物は見られないことから、古墳時代初期～前期頃までに整地等により構築された層と思われる。

#### 〔第2面〕（図版4）

古墳時代初期の遺構としては、竪穴建物2棟と26基の柱穴群を検出した。竪穴建物002は一辺約6.8mを測る大型の方形プランの竪穴建物であり、真北に対し西に約45°の傾きがある。壁に沿って壁溝を巡らし、入口と推定される部分はやや外側に張り出す。入口と推定される部分には2段の作りとなっている貯蔵穴があり、上段は方形、下段は円形の平面形を呈する。下段内部より土師器の甕が出土し、下段埋土直上より土師器甕、上段底面から小型高杯や小型器台が出土した。これらの遺物は、埋立て時に埋納されたものと思われる。竪穴建物002の中央部分は少し下がっており、そこに厚さ約0.05mの貼床を施し、その後、支柱穴と炉穴を構築している。炉穴は一部被熱痕が見られるものの、全体的な被熱の痕跡は見られないため、炉の使用はごく短期間だったと思われる。また、竪穴建物を拡張した痕跡や建て替え等による切り合いも見られないことから、竪穴建物002は短期間で廃棄され、埋め立てられたものと思われる。

竪穴建物003は一部の検出であったものの、隅部分の角度が125°の開きがあり、平面形は方形ではなく多角形と判断した。支柱穴の一部と壁溝を検出し、壁溝内には壁面の崩落を防ぐ板材を留めていた杭痕と思われる小穴を検出した。壁溝内に小穴を設けた竪穴建物は、ノートルダム女子大学の校舎建設に伴う調査（図6-1・14）、個人住宅建設に伴う調査（図6-11）でも確認されている。竪穴建物003は、平面プランと合わせて竪穴建物002とは異なるタイプの竪穴建物である。出土遺物は竪穴建物002、003とも庄内式期のものであることから、ほぼ同じ時期に造られ、同じ時期に廃絶したものと思われる。

竪穴建物に伴わない柱穴群は径約0.2～0.3mの柱穴であるが、建物としてのプランを復元することはできなかった。

竪穴建物003および柱穴群の上層は遺物包含層である第3層であるが、出土遺物は庄内式期までのものしか見られないことから、竪穴建物003および柱穴群の廃絶後、時間を置かずに整地（第3層）をされた可能性がある。

以上、今回の調査により、府営公舎建築の調査で確認された竪穴建物群の広がりを補完する結果を得ることができた。

## 2 当調査区および周辺調査で確認された建物跡の時代推移（図6・7）

今回の調査区の周辺で過去に行われた調査では、多くの竪穴建物が確認されている。特にノートルダム女子大学の校舎建設の調査（図6-1・7・8・14）および東側の住宅地の調査（図6-5・6・10・11・18）では、古墳時代初期～後期にかけての竪穴建物が46棟検出されている。さらにノートルダム女子大学北側の北山ふれあいセンター建設の調査（図6-13）で弥生時代後期～古墳時代初期の竪穴建物が9棟、当調査地に隣接する府営公舎建設の調査（図6-3・4、図7）で弥生時代後期～古墳時代前期の竪穴建物が10棟、当調査地西の医療施設建設の調査（図6-2）で、古墳時代前期の竪穴建物が9棟確認されている。これらの調査成果から、当調査地一帯には弥生時代後期～古墳時代後期にかけての大規模な集落が展開されていたことが判明している。一方、当調査区の南西に位置する京都コンサートホールの調査（図6-20）および歴彩館の調査（図6-15）では、竪穴建物は、古墳時代後期のものが1棟のみの検出であったのに対し、飛鳥時代～平安時代のものが12棟検出されている。また、奈良時代の掘立柱建物が18棟、平安時代の掘立柱建物が31棟確認されており、中には三面庇の大規模な掘立柱建物も含まれる。これらのことから、弥生時代後期～古墳時代後期にかけては、植物園の北東から東の一角が集落の中心であったものが、飛鳥時代以降は植物園の一角が集落の中心地となり、平安時代に入ると、この一角を治めた一族が居館を構えたと考えられる。

## 3 当調査区および周辺調査で確認された多角形プランの竪穴建物について（図6）

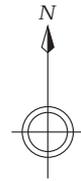
今回の調査で検出した竪穴建物は、古墳時代初期の方形と多角形の2棟である。そこで、当調査地と周辺で確認された竪穴建物を考察していきたい。

まず、今回の調査および周辺の調査で確認された竪穴建物の平面プランは、93棟中3棟が多角形、残りの90棟が方形である。弥生時代後期以降から集落が営まれた植物園北遺跡では竪穴建物の多くが方形の平面プランを採用し、奈良時代まで作られ続ける。一方で、上記のように多角形の平面プランを持つものが今回の調査と合わせて3棟存在する。京都市内では多角形の平面プランを持つ竪穴建物は大藪遺跡<sup>(1)</sup>、中臣遺跡第35次<sup>(2)</sup>・第56次<sup>(3)</sup>・第67次<sup>(4)</sup>・第70-4次<sup>(5)</sup>で確認されており、植物園北遺跡の例と合わせると8例となる。

大藪遺跡では弥生時代後期、中臣遺跡では古墳時代初期に比定される多角形平面プランの竪穴建物が確認されているが、いずれも少数である。植物園北遺跡の調査で確認された多角形の竪穴建物は、いずれも一部分の検出に留まり、正確な規模は把握できない。一方で、ノートルダム女子大学東の共同住宅の調査および大藪遺跡、中臣遺跡の調査で確認された多角形の竪穴建物は、同調査地および周辺の調査で確認された方形の竪穴建物よりも床面積の規模がやや大きい。多賀茂治氏は兵庫県播磨町の大中遺跡の竪穴建物を例に挙げ<sup>(6)</sup>、六角形など多角形を呈する規模の大きい竪穴建物は同遺跡内でも少数であることから、一家族の住居ではなく、集落の共同作業の場ではないかとする。また、大型化するにあたり主柱を増やす必要があるため、多角形という平面プランに

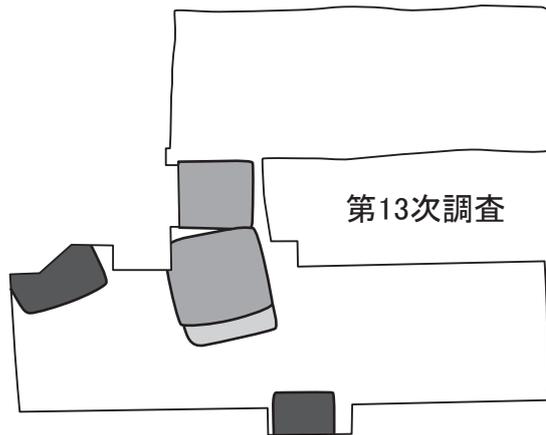


図6 調査地周辺建物跡分布図 (1 : 5,000)



Y=-21,010    Y=-21,000    Y=-20,990    Y=-20,980    Y=-20,970    Y=-20,990    Y=-20,980    Y=-20,970

今回調査地



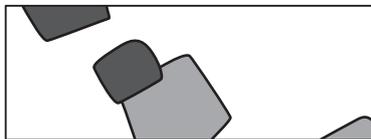
X=-104,980

X=-104,990

X=-105,000

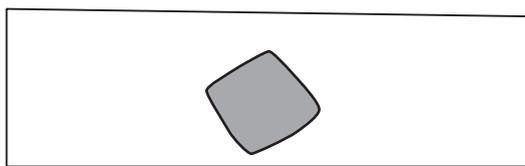
X=-105,010

X=-105,020



X=-105,030

第16次調査



X=-105,040

X=-105,050



-  弥生時代後期
-  古墳時代初期
-  古墳時代前期

図7 第13次・第16次調査合成図（1：600）

なったのではないかと述べている。今回の調査で検出した竪穴建物003では、方形プランの竪穴建物002には見られない壁溝内に壁面の崩落を防ぐ板材を留めたと思われる杭痕が見られることから、竪穴建物002よりも規模の大きい平面プランを有していた可能性がある。その場合、竪穴建物003が中心的な役割を果たす施設であった可能性が考えられる。

#### 4 当調査区および周辺調査で確認された方形竪穴建物の真北に対する角度について（図6・7、表4）

当調査区で検出した竪穴建物002は、真北に対しほぼ西に45°の傾きで構築されており、府営公舎建築の調査においても傾きが一致する同時期の方形竪穴建物が確認されている。このため、構築時期により真北に対しての傾きに統一性がある可能性を想定し、周辺の調査で確認された竪穴建物の構築時期と真北に対する傾きを図表にまとめた（表4）。結果、同時期でも傾きに統一性はなく、異なる時期でもほぼ同じ傾きで構築される竪穴建物が多くみられることから、構築時期による竪穴建物の傾きには統一性は見られないと判断した。

#### 註

- (1) 西森正晃『大藪遺跡』京都市埋蔵文化財発掘調査報告2006-32 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2007年
- (2) 伊藤 潔・網 伸也「中臣遺跡第35次調査」『昭和55年度京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2011年
- (3) 平方幸雄・辻 裕司「中臣遺跡第56次調査」『昭和58年度京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1985年
- (4) 平方幸雄・菅田 薫「中臣遺跡第67次調査」『昭和61年度京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1989年
- (5) 平方幸雄「中臣遺跡第70-4次調査」『平成3年度京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1995年
- (6) 多賀茂治「弥生時代竪穴建物のかたちと機能」『兵庫県立考古博物館研究紀要 第14号』兵庫県立考古博物館 2021年

#### 参考文献

- 柏田有香・加納敬二・田中利津子・モンペティ 恭代『植物園北遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2012-24 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2013年
- 岸岡貴英・長友朋子・杉本厚典「植物園北遺跡第13次発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報 第58冊』公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 1994年
- 石尾政信・杉本厚典「植物園北遺跡第16次発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報 第70冊』公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 1996年
- ※図6・7を作成するにあたり、以上の報告書に掲載されている平面図を参考にした。

表4 植物園北遺跡竪穴建物一覧表

番号	遺跡名	調査地	調査方法	棟数	形状	真北に対する西への傾き(方形)	年代	調査主体	掲載報告書	備考
1	植物園北遺跡	左京区下鴨南野々神町	発掘	11	方形	10° (2) 20° (4) 30° (1) 40° (1) 45° (1) 50° (1) 55° (1)	古墳時代初期6棟 古墳時代前期2棟 古墳時代後期3棟	ノートルダム女子大学	長谷川行孝『ノートルダム女子大学構内遺跡発掘調査報告-植物園北遺跡-』ノートルダム女子大学 1991年	古墳時代初期(10° 20° 50°) 古墳時代前期(30° 45°) 古墳時代後期(20° 40° 55°)
2	植物園北遺跡7次	北区上賀茂松本町	発掘	9	方形	10° (1) 15° (1) 20° (3) 30° (2) 45° (2)	古墳時代初期	市埋文	高橋 潔「植物園北遺跡」『平成2年度京都市埋蔵文化財調査概要』埋文研 1994年	
3	植物園北遺跡13次	左京区下鴨北芝町	発掘	5	方形	1~2° (1) 5° (1) 22° (2) 24° (1)	弥生時代後期1棟 古墳時代初期4棟	府埋文	岸岡貴英・長友朋子・杉本厚典「植物園北遺跡第13次発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報 第58冊』府埋文 1994年	弥生時代後期(22°) 古墳時代初期(5° 22°) 古墳時代前期(1~2° 24°)
4	植物園北遺跡16次	左京区下鴨北芝町	発掘	6	方形	10° (1) 20° (1) 25° (1) 30° (1) 40° (2)	古墳時代前期	府埋文	石尾政信・杉本厚典「植物園北遺跡第16次発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報 第70冊』府埋文 1996年	
5	植物園北遺跡	左京区松ヶ崎芝本町	立会	6	方形	5° (2) 25° (1) 30° (1) 45° (2)	古墳時代初期	市埋文	吉崎 伸「植物園北遺跡(06RH234)」『京都市内遺跡立会調査報告 平成18年度』京都市文化市民局 2007年	
6	植物園北遺跡	左京区松ヶ崎芝本町	発掘	4	方形・多角形	10° (1) 1~2° (2) 20° (1)	飛鳥~奈良時代1棟 古墳時代前期3棟	市埋文	山本雅和「植物園北遺跡1(06S753)」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成19年度』京都市文化市民局 2008年	飛鳥~平安時代(10°) 古墳時代前期(1~2° 20°)
7	植物園北遺跡	左京区下鴨南野々神町	立会	1	方形	55°	古墳時代初期	市埋文	吉本健吾「植物園北遺跡(10RH291)」『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成22年度』京都市文化市民局 2011年	
8	植物園北遺跡	左京区下鴨南野々神町	立会	3	方形	1~2° (1) 35° (2)	古墳時代初期2棟 古墳時代前期1棟	市埋文	吉本健吾「植物園北遺跡(11RH256)」『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成23年度』京都市文化市民局 2012年	古墳時代初期(35°) 古墳時代前期(1~2°)
9	植物園北遺跡	左京区下鴨北園町	発掘	2	方形	25°	飛鳥時代	市埋文	津々池惣一「植物園北遺跡」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成23年度』京都市文化市民局 2012年	
10	植物園北遺跡	左京区松ヶ崎芝本町	立会	2	方形	20° (1) 30° (1)	古墳時代初期~前期	市埋文	辻 裕司・田中利律子「植物園北遺跡(12RH260)」『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成24年度』京都市文化市民局 2013年	古墳時代初期(20°) 古墳時代前期(20°)
11	植物園北遺跡	左京区松ヶ崎芝本町	発掘	4	方形	20° (1) 40° (1) 45° (1) 不明(1)	古墳時代前期	市埋文	吉崎 伸「植物園北遺跡(11S326)」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成24年度』京都市文化市民局 2013年	
12	植物園北遺跡	左京区下鴨南野々神町	立会	1	不明	不明	古墳時代前期	市埋文	赤松佳奈「植物園北遺跡(10S134)」『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成27年度』京都市文化市民局 2016年	
13	植物園北遺跡	左京区下鴨北野々神町	発掘	9	方形	10° (1) 25° (1) 30° (2) 35° (1) 40° (3) 45° (1)	弥生時代後期~古墳時代前期	市埋文	平田 泰・モンベティ恭代「植物園北遺跡」京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2007-1 埋文研 2007年	
14	植物園北遺跡	左京区下鴨南野々神町	発掘	16	方形・多角形	20° (1) 25° (2) 30° (3) 40° (5) 45° (3) 50° (1)	古墳時代初期13棟 古墳時代後期3棟	市埋文	柏田有香ほか「植物園北遺跡」京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2012-24 埋文研 2013年	古墳時代前期初頭(20° 25° 30° 40° 45°) 古墳時代前期後半(40° 45°) 古墳時代後半(30° 40°)
15	植物園北遺跡・下鴨半木町遺跡	左京区下鴨半木町	発掘	7	方形	7° (1) 20° (1) 30° (3) 40° (1) 50° (1)	古墳時代後期1棟 飛鳥~奈良時代6棟	府埋文	中川和哉・高野陽子・黒坪一樹・筒井崇史・牧田梨津子・「植物園北遺跡」『京都府遺跡調査報告集 第159冊』府埋文 2014年	古墳時代後期(40°)
16	植物園北遺跡	北区上賀茂松本町	発掘	2	方形	35° (1) 不明(1)	古墳時代初期	地域文化財研究所	影山美智与・江崎周二郎「植物園北遺跡発掘調査報告書」株式会社地域文化研究所 2020年	

番号	遺跡名	調査地	調査方法	棟数	形状	真北に対する西への傾き(方形)	年代	調査主体	掲載報告書	備考
17	植物園北遺跡	左京区下鴨北野々神町	立会	1	方形	1～2°	古墳時代初期	市文化財保護課	奥井智子「植物園北遺跡(18S434)」『京都市内遺跡詳細分布調査報告 令和元年度』京都市文化市民局 2020年	
18	植物園北遺跡	左京区松ヶ崎本町	発掘	1	方形	1～2°	飛鳥時代	市文化財保護課	新田和央「植物園北遺跡(19S614)」『京都市内遺跡発掘調査報告 令和2年度』京都市文化市民局 2021年	
19	植物園北遺跡	京都市左京区下鴨神殿町	立会	1	方形	15°	古墳時代後期以降	市文化財保護課	黒須亜希子「植物園北遺跡(21S686)」『京都市内遺跡詳細分布調査報告 令和4年度』京都市文化市民局 2023年	
20	植物園北遺跡	左京区下鴨半木町	発掘	6	方形	1～2°	奈良時代	市埋文	久世康博「植物園北遺跡」『平成3年度 京都市埋蔵文化財調査概要』埋文研 1995年	
21	植物園北遺跡	左京区下鴨北芝町	発掘	2	方形・多角形	45°	古墳時代初期	文化財サービス	田邊貴教『植物園北遺跡発掘調査報告書』文化財サービス発掘調査報告書第32集 株式会社文化財サービス 2024年	本報告書

表5 遺物観察表

掲載No	器種	器形	調査区	面	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	厚(cm)	色調	備考
1	須恵器	蓋杯	1区	1面	遺構検出中(2層内)	17.4	(2.0)	-	-	N7/0 灰白色	
2	灰釉陶器	皿	1区	1面	遺構検出中(2層内)	-	(1.3)	6.8	-	(釉) 7.5YR6/1 灰色 (胎) 5Y8/1 灰白色	
3	輸入白磁	椀	1区	1面	遺構検出中(2層内)	-	(2.1)	6.6	-	(釉) 10YR8/1 灰白色 (胎) N8/0 灰白色	福建省系
4	染付	筒茶碗	1区	1面	溝 001	6.6	(3.6)	-	-	(釉) 呉須 (胎) N8/0 灰白色	陶胎染付 瀬戸美濃系か
5	土師器	皿	1区	1面	土坑 010	10.6	1.0	-	-	10YR8/3 浅黄橙色	皿 Ac
6	土師器	皿	1区	1面	土坑 011	15.8	(3.0)	-	-	10YR8/2 灰白色	皿 N
7	土師器	皿	1区	1面	土坑 011	11.6	(0.8)	-	-	10YR7/2 にぶい黄橙色	皿 Ac
8	土師器	皿	1区	1面	柱穴 020	9.7	1.2	-	-	10YR8/2 灰白色	皿 Ac
9	土師器	甕	1区	1面	第3層内	20.0	(4.8)	-	-	10YR8/4 浅黄橙色	庄内式期
10	土師器	甕	1区	1面	第3層内	-	(2.6)	4.7	-	10YR6/2 灰黄褐色	山城V - 5
11	土師器	甕	1区	2面	竪穴建物 002 (埋土上層)	13.2	(8.9)	-	-	10YR8/2 灰白色	庄内式期
12	土師器	小型器台	1区	2面	竪穴建物 002 (埋土下層)	-	(5.7)	-	-	10YR8/2 灰白色	庄内式期
13	土師器	高杯	1区	2面	竪穴建物 002 (埋土下層)	-	(7.5)	-	-	10YR8/4 浅黄橙色	庄内式期
14	土師器	台付鉢	1区	2面	竪穴建物 002 (埋土下層)	-	(2.8)	-	-	10YR7/2 にぶい黄橙色	庄内式期
15	土師器	甕	1区	2面	竪穴建物 002 (床面直上)	14.0	(6.0)	-	-	(内) 2.5Y5/1 褐灰色 (外) 10YR8/1 灰白色	庄内式期
16	土師器	脚付壺	1区	2面	竪穴建物 002 (床面直上)	-	(7.1)	-	-	(内) 10YR7/1 灰白色 (外) 7.5YR6/4 にぶい橙色	庄内式期
17	石製品	石皿か	1区	2面	竪穴建物 002 (床面直上)	長 27.4	幅 13.0	-	7.6	-	砂岩製 重量 3700g
18	土師器	甕	1区	2面	柱穴 063 (竪穴建物 002)	-	(10.0)	-	-	2.5Y8/1 灰白色	庄内式期
19	土師器	壺	1区	2面	溝 066 (竪穴建物 002)	15.6	25.4	3.8	-	7.5YR8/4 浅黄橙色	庄内式期
20	土師器	小型器台	1区	2面	溝 066 (竪穴建物 002)	-	(6.6)	10.7	-	10YR8/2 灰白色	庄内式期
21	土師器	甕	1区	2面	土坑 067 (竪穴建物 002)	17.8	(21.5)	-	-	10YR7/3 にぶい黄橙色	庄内式期
22	土師器	小型器台	1区	2面	土坑 067 (竪穴建物 002)	-	(4.7)	8.3	-	7.5YR7/4 にぶい橙色	庄内式期
23	土師器	鉢	1区	2面	土坑 067 (竪穴建物 002)	10.6	4.2	5.7	-	10YR7/4 にぶい黄橙色	庄内式期
24	土師器	甕	1区	2面	土坑 067 (竪穴建物 002)	16.6	(5.1)	-	-	7.5YR8/4 浅黄橙色～ 10YR6/2 灰黄褐色	庄内式期
25	土師器	甕	1区	2面	土坑 067 (竪穴建物 002)	17.4	(5.4)	-	-	7.5YR8/4 浅黄橙色	庄内式期
26	土師器	甕	1区	2面	竪穴建物 003 (埋土上層)	14.7	(2.6)	-	-	7.5YR8/2 灰白色	庄内式期
27	土師器	小型丸底壺	1区	2面	竪穴建物 003 (埋土下層)	-	(3.6)	(2.6)	-	10YR7/3 にぶい黄橙色	庄内式期
28	石製品	磨石	1区	2面	竪穴建物 003 (埋土下層)	長 5.4	幅 4.7	-	4.4	-	砂岩製 重量 140.8g
29	鉄製品	脇差刀身	1区		耕作土中	長 (刃+茎) 60.7	幅 2.3	-	厚(元重) 0.7	-	磨上茎、 目釘孔3個
30	銅製品	ハバキ	1区		耕作土中	縦 3.0	横 2.3	-	0.9	-	金着二重ハバキ
31	鉄製品	鐔	1区		耕作土中	縦 7.0	横 6.8	-	0.4	-	葵透かし文様 銘あり「越前 住記内作」

掲載 No	器種	器形	調査 区	面	出土遺構	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	厚 (cm)	色調	備考
32	銅製品	縁金	1区		耕作土中	縦 3.5	横 2.4	-	0.8	-	菊と牡丹の金銀装飾、魚子地
33	銅製品	切羽	1区		耕作土中	縦 3.8	横 2.4	-	0.1	-	
34	銅製品	切羽	1区		耕作土中	縦 3.8	横 2.4	-	0.1	-	
35	木製品	鞘	1区		耕作土中	長 53.0	幅 3.3	-	-	-	差表側に墨書 『□秀□』

## 附章 調査地にて出土した脇差および刀装具について

調査区内の重機掘削中、耕作土内より一振りの脇差の刀身と木製の鞘、鉄製の鐔、銅製のハバキ、切羽、縁金の刀装具一式が出土した。柄部分は腐食のため失われていたが、ハバキ、切羽、鐔、縁金は本来の刀身に付属した状態で出土した。柄頭は確認できなかった。鞘は半分に分かれた状態で刀身とは別で出土したが、本来は鞘に刀身が収められた状態であったと思われる。

以下、刀身および刀装具について述べる。

### 1. 刀身 (29) (図版 21 - 1)

刃部(上身)は、刃長 50.0 cm、反り 1.0 cm、元重 0.7 cm、先重 0.4 cm、身幅 2.3 cm。全体的に錆が出ているが、一部刃紋が確認でき互の目刃紋と思われる。地肌は不明。刀身に対し垂直方向に多数の傷があり、荒砥ぎをしたものと思われる。茎は茎長 10.7 cm、磨上の茎であり、茎尻の形状から慶長磨上と思われる。鑓目は勝手下り鑓。目釘孔は 3 個あり、うち 1 個は未貫通である。茎に銘は確認できないが、磨上茎のため本来存在した茎には銘が存在した可能性がある。

本来は江戸時代以前に作刀された 2 尺以上の打刀もしくは太刀だったと思われるが、江戸時代に脇差として使用するため 1 尺 6 寸 7 分にまで磨上げ短くしたものと考えられる。

### 2. ハバキ (30) (図版 21 - 1)

縦 3.0 cm、横 2.3 cm、厚さ 0.9 cm。銅製の二重ハバキで、地金の銅に金を被せた金着ハバキと思われる。表面には斜め方向の鑓目の装飾を施す。刀身の錆により固着しているため、刀身から外すことはできなかった。

### 3. 鐔 (31) (図版 21 - 2)

縦 7.0 cm、横 6.8 cm、厚さ 0.4 cm。2 枚の葵葉を上下に向い合せた葵透かし文様の鉄製の鐔である。葵文様の一部に塗金が残る。切羽台に「越前住記内作」の銘がある。記内は越前国の金工の一派で、寛永年間より幕末まで続いた。

### 4. 縁金 (32) (図版 21 - 3)

縦 3.5 cm、横 2.4 cm、高さ 0.8 cm。銅製で菊と牡丹の文様をそれぞれ片面ずつ打ち出し、金と銀の装飾を施す。肌は魚子地を施す。

### 5. 切羽 (33、34) (図版 21 - 3)

縦 3.8 cm、横 2.4 cm、厚さ 0.1 cm。銅製で片面に塗金を施す。縁に小刻を施し、一部に小柄を通す切り込みがある。2 枚出土した。

### 6. 鞘 (35) (図版 21 - 1、22)

長さ 53.0 cm、幅 3.3 cm、反り 0.8 cm。木製で鞘の半身同士の貼り合わせによる造りである。差表側に下緒を通す栗形を取り付ける凹み、差裏側に小柄を収める小柄櫃を施す。鞘の一部および小柄櫃の内部に鮫皮と思われるものが残存しており、本来は鮫皮を巻いた上に黒漆を塗り研ぎだした鮫鞘だったと思われる。差表側には墨書があり、赤外線によるスキャンの結果、『□秀□』

(□は判読不能)の3文字を確認することができた。鞘、栗形、小柄櫃を塞ぐ板はそれぞれ接着が取れ分割した状態で出土した。

#### 参考

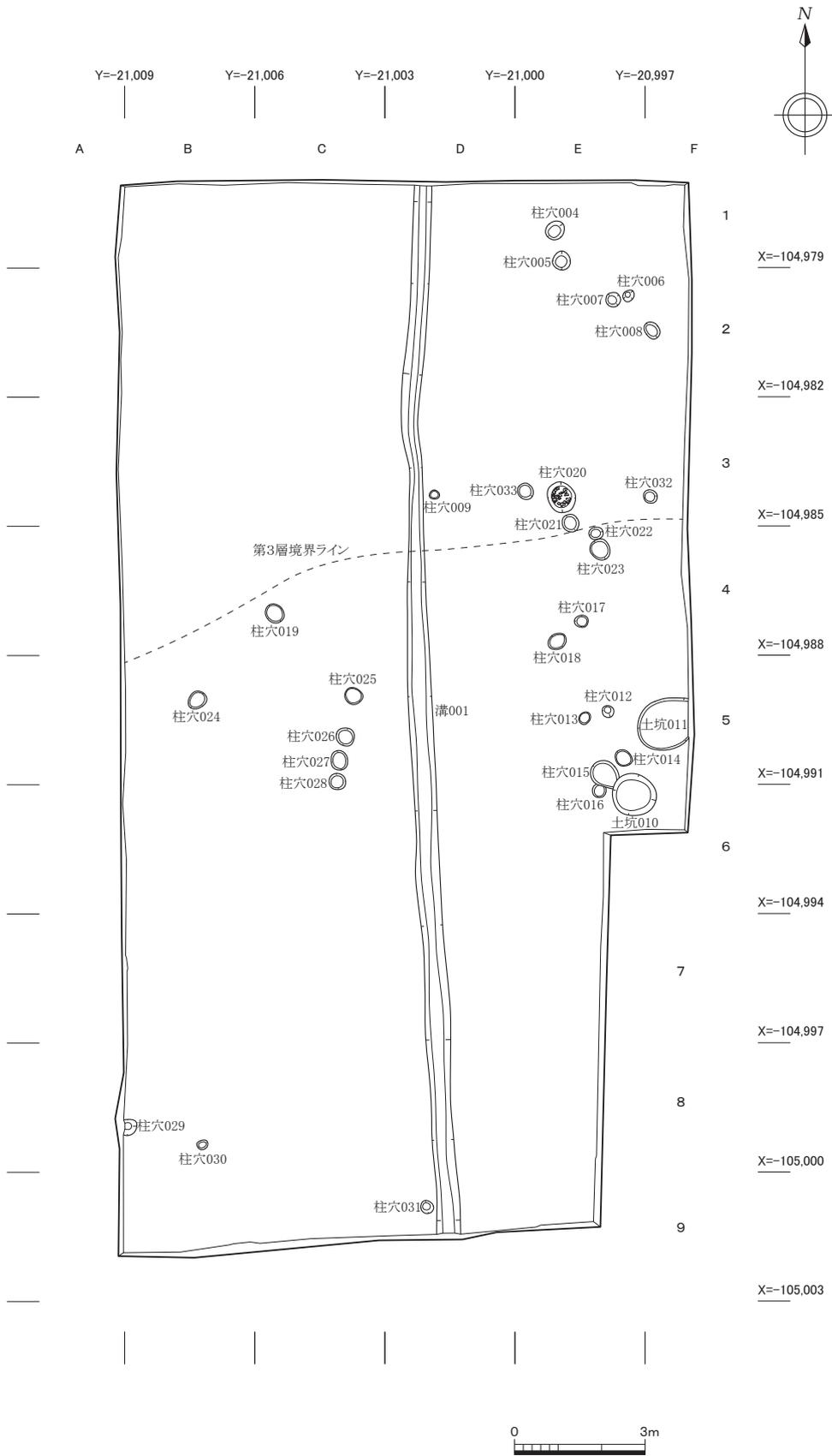
東建コーポレーション株式会社 株式会社東通エイジェンシー「刀剣ワールド」

<https://www.touken-world.jp/tips/10388/>

# 図 版

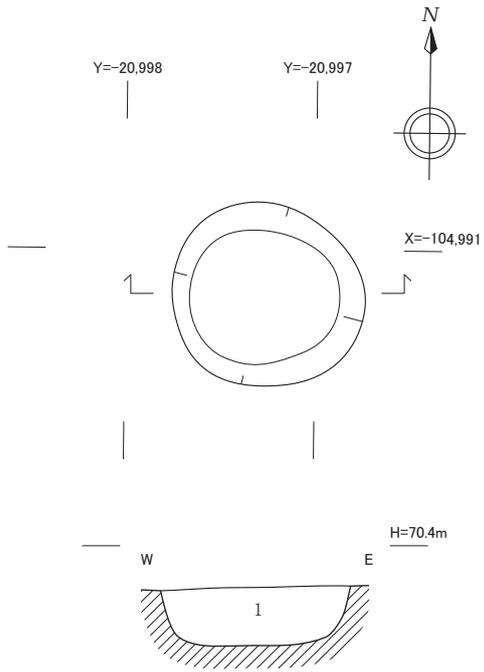






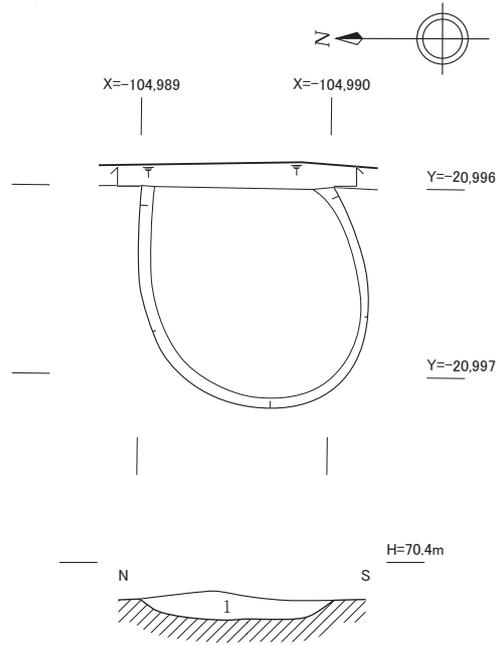
第1面平面図 (1 : 150)

土坑010



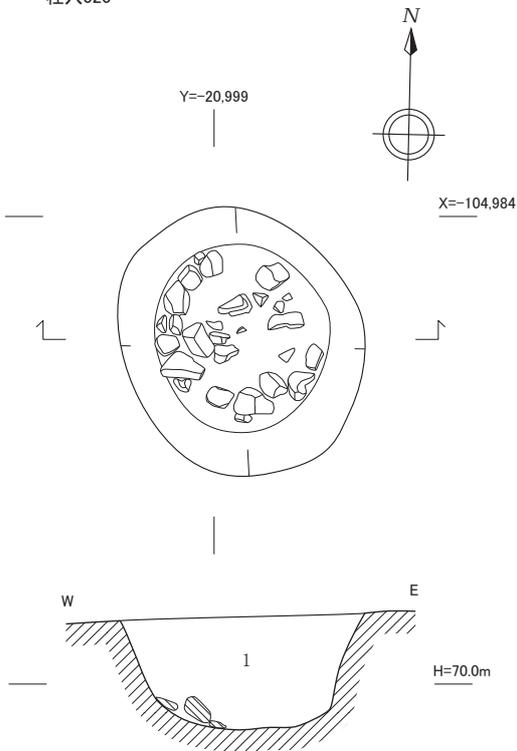
1 10YR4/4褐色粘質シルト 礫・遺物含

土坑011



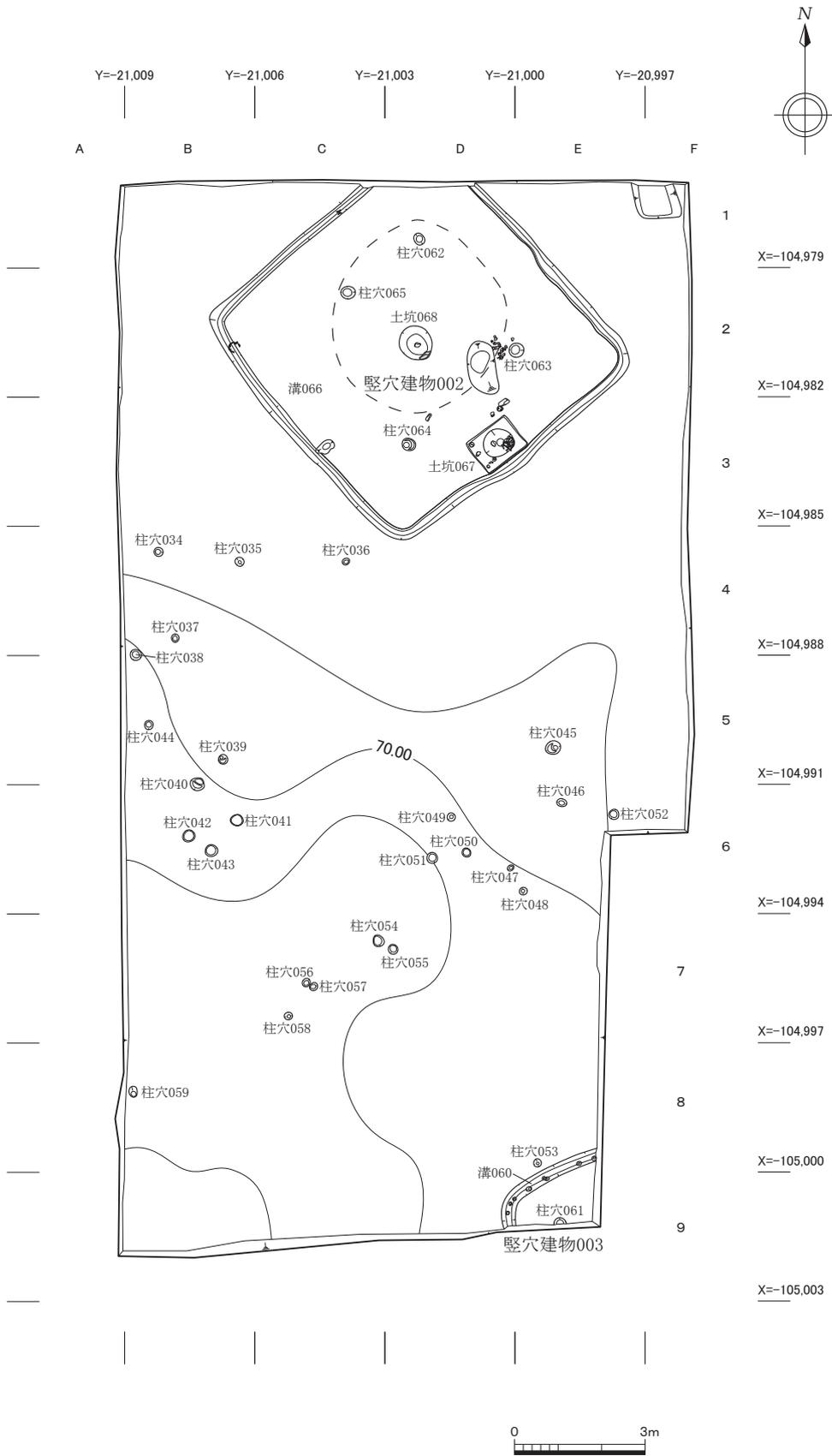
1 7.5YR3/1黒褐色粘質シルトと  
10YR5/2にぶい黄褐色粘質シルトとの混り  
小石・遺物含

柱穴020

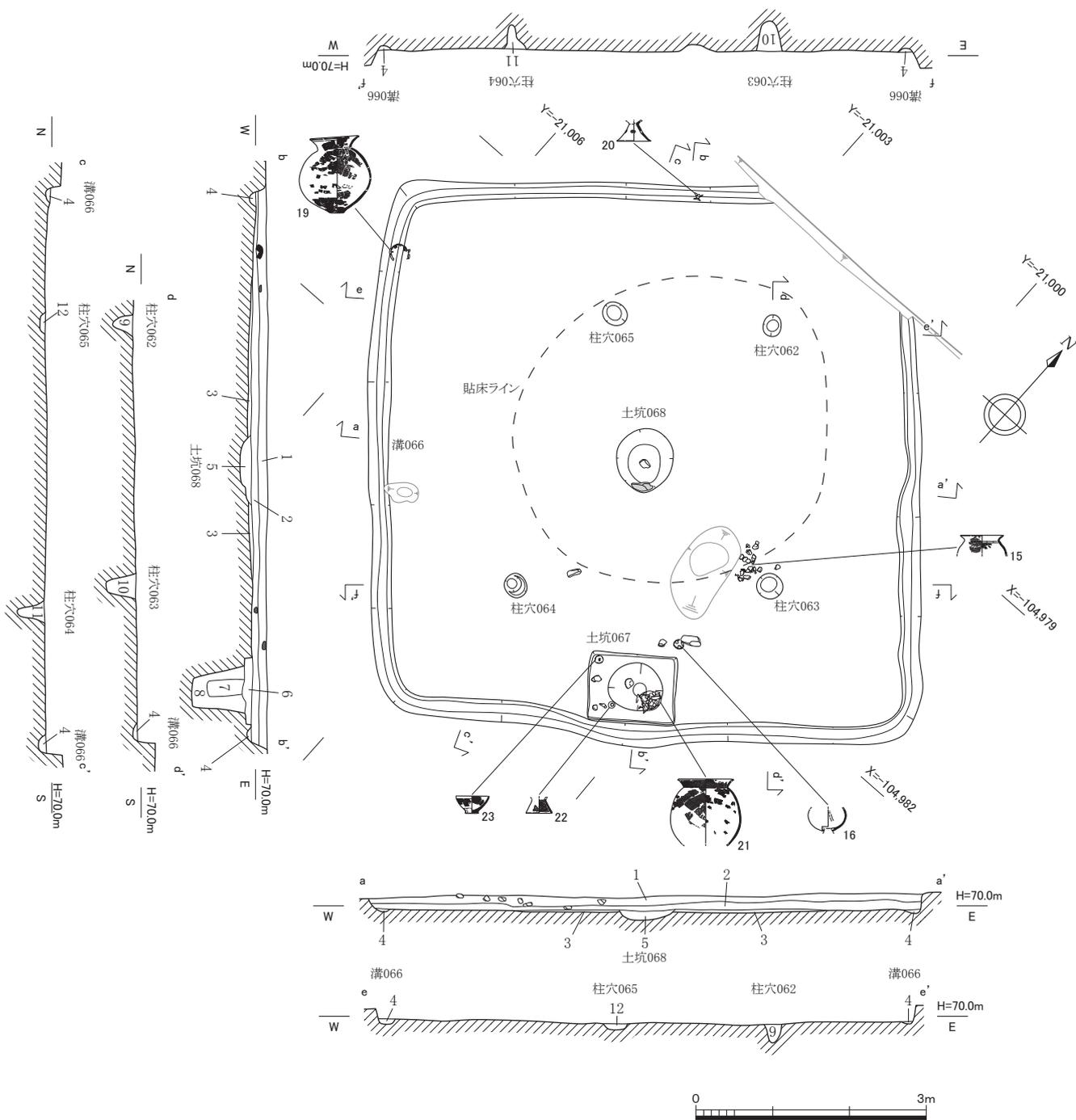


1 7.5YR4/1褐灰色粘質シルト 小石・遺物含

土坑010・011、柱穴020平面・断面図 (1 : 40)

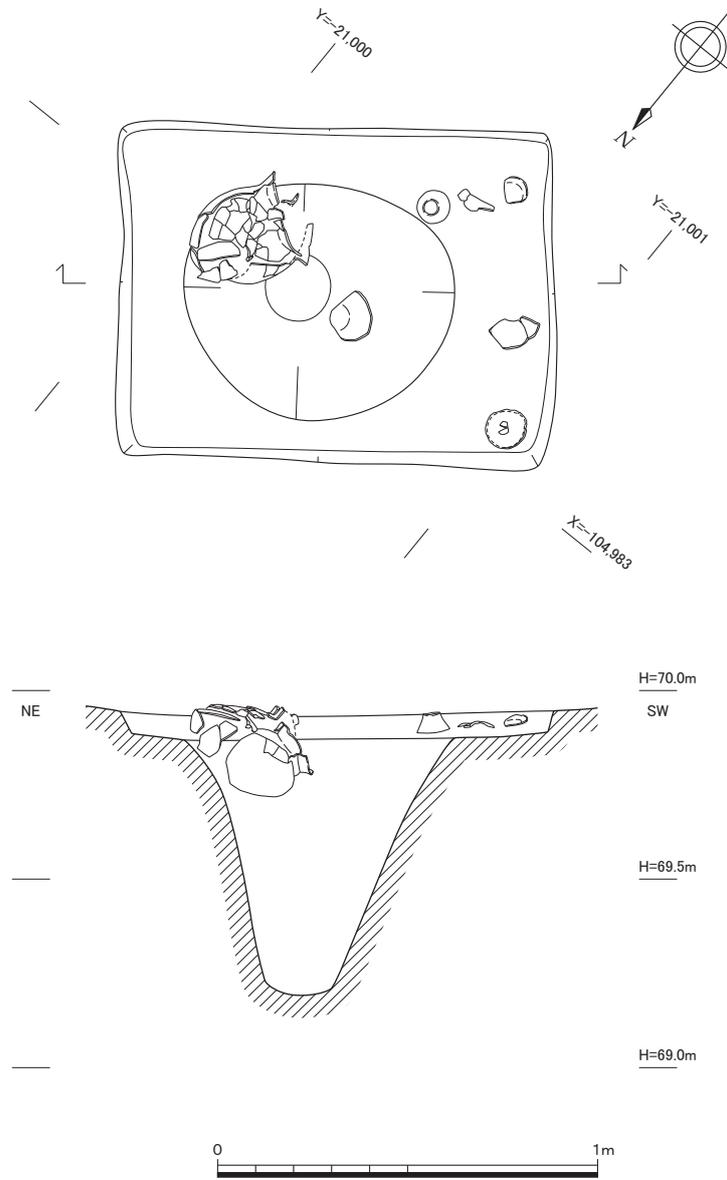


第2面平面图 (1:150)

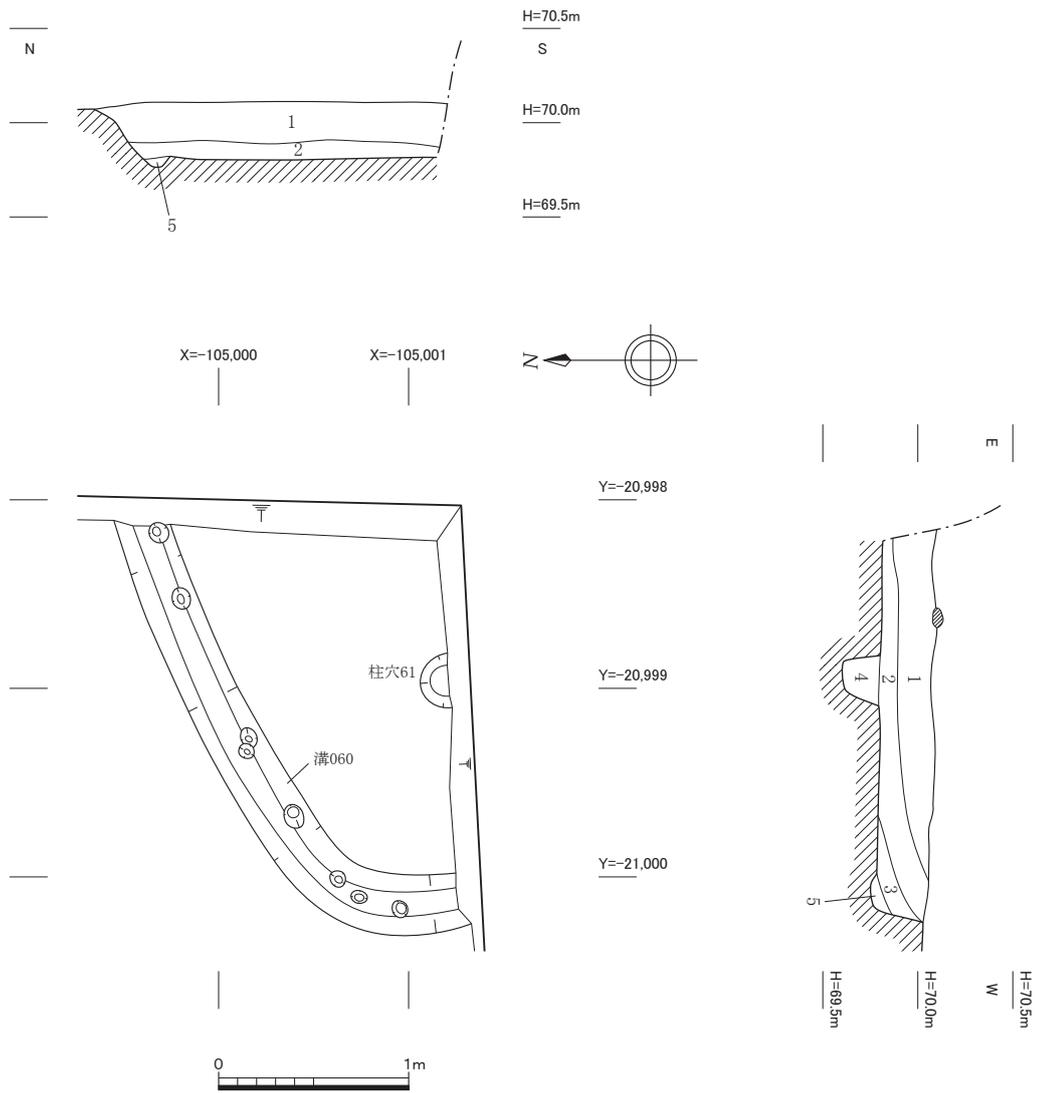


- |    |                  |                        |                                 |
|----|------------------|------------------------|---------------------------------|
| 1  | 7.5YR4/2灰褐色粘質シルト | 7.5YR5/8明赤褐色シルトブロック含   | 西側にφ10cm大の礫多量含 全体的に遺物多量含 [埋土上層] |
| 2  | 7.5YR3/2黒褐色粘質シルト | 10YR5/6明赤褐色シルトブロック・小石含 | 遺物多量含 [埋土下層]                    |
| 3  | 10YR3/2黒褐色粘質シルト  | 7.5YR5/6明褐色シルトブロック含    | [貼床]                            |
| 4  | 10YR2/2黒褐色粘質シルト  | 小石含                    | [溝066] 壁溝                       |
| 5  | 5YR3/2黒褐色粘質シルト   | 2.5Y4/6赤褐色焼土ブロック含      | [土坑068] 炉跡                      |
| 6  | 7.5YR3/2黒褐色粘質シルト | 小石・遺物含                 | [土坑067] 貯蔵穴                     |
| 7  | 10YR3/2黒褐色粘質シルト  | 小石・炭化物含                |                                 |
| 8  | 10YR2/2黒褐色粘質シルト  | 礫・遺物(一個体か)・炭化物含        | [埋納穴か?]                         |
| 9  | 10YR3/2黒褐色粘質シルト  | 小石・遺物含                 | [柱穴062]                         |
| 10 | 10YR3/2黒褐色粘質シルト  | 小石・遺物含                 | [柱穴063]                         |
| 11 | 10YR3/2黒褐色粘質シルト  | 遺物含                    | [柱穴064]                         |
| 12 | 10YR3/2黒褐色粘質シルト  | 遺物含                    | [柱穴065]                         |

竪穴建物002平面・断面図 (1 : 80)



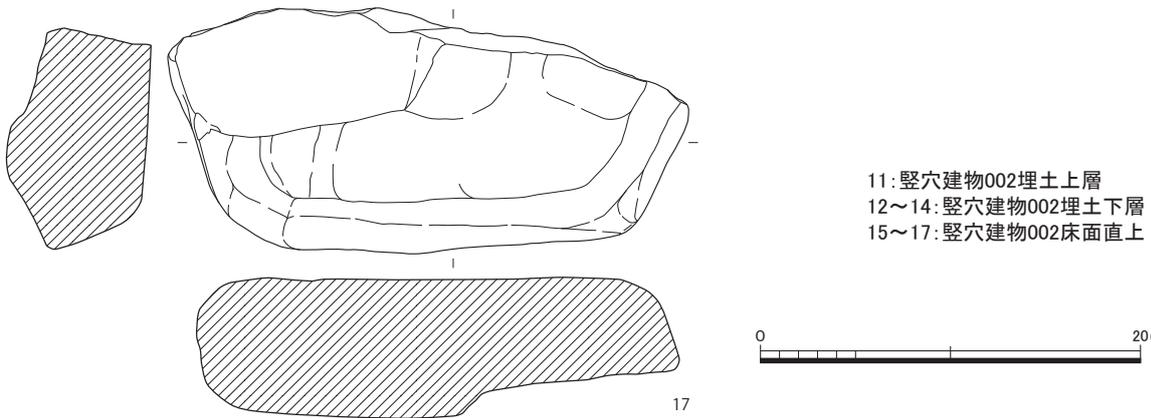
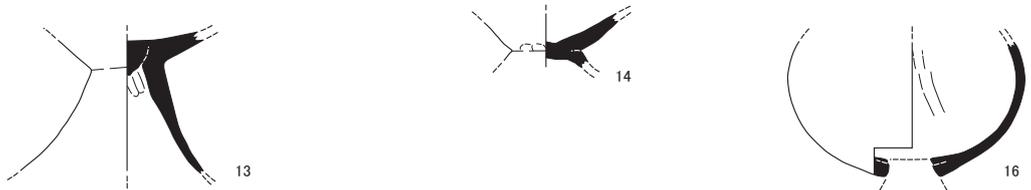
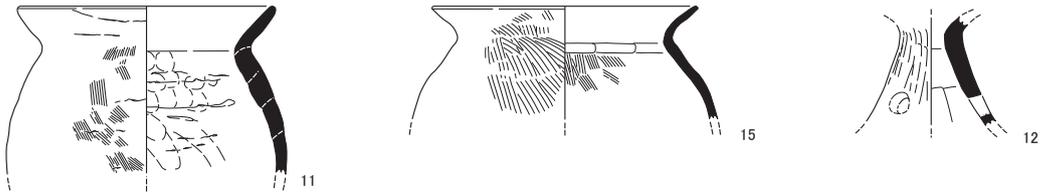
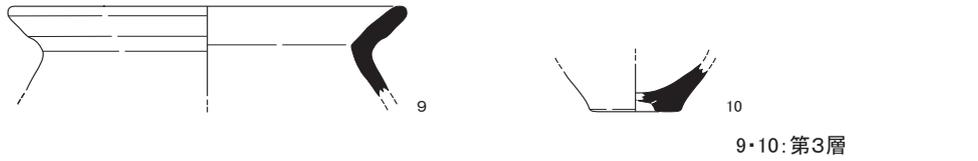
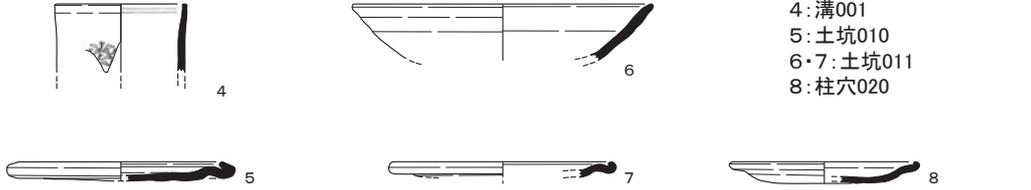
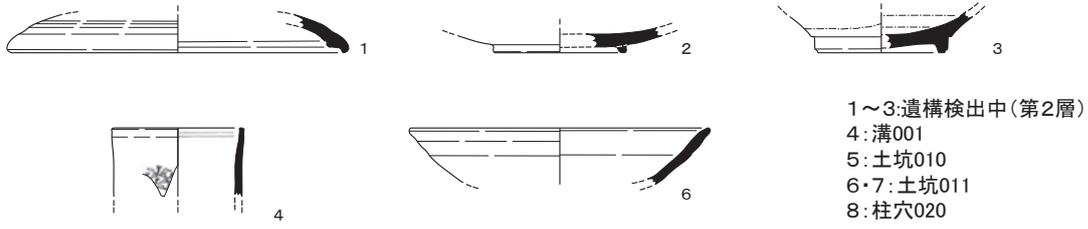
土坑067平面·立面图 (1 : 20)

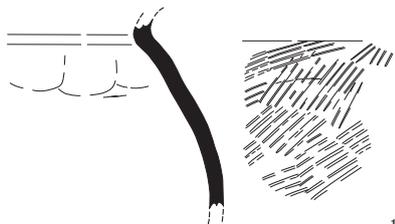
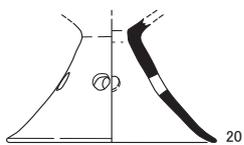


- |   |                 |                         |
|---|-----------------|-------------------------|
| 1 | 10YR3/2黒褐色粘質シルト | 10YR5/6黄褐色シルトブロック・遺物少量含 |
| 2 | 10YR3/2黒褐色粘質シルト | 小石含                     |
| 3 | 10YR2/3黒褐色粘質シルト | 小石含                     |
| 4 | 10YR2/2黒褐色粘質シルト | 遺物含 [柱穴061]             |
| 5 | 10YR3/2黒褐色粘質シルト | [溝060]                  |

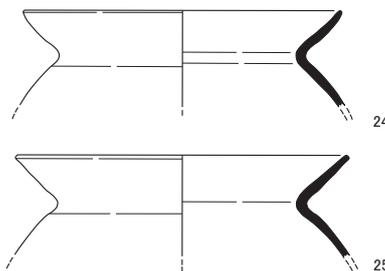
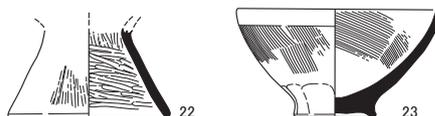
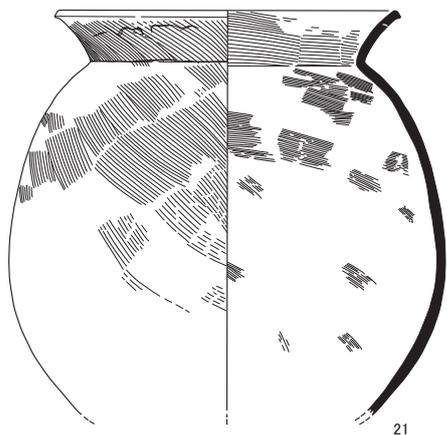
竪穴建物003平面・断面図 (1:40)

図版  
8

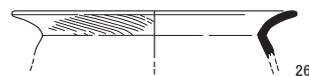
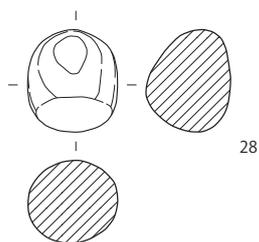




18: 柱穴063(竖穴建物002)  
19・20: 溝066(竖穴建物002)



21~25: 土坑067(竖穴建物002)



26: 竖穴建物003埋土上層  
27・28: 竖穴建物0036埋土下層





1. 第1面全景（南から）



2. 第1面全景（北から）



1. 第1面全景（上が東）



2. 土坑010半裁状況（南から）



1. 土坑011完掘状況（西から）



2. 柱穴020根石検出状況（南から）



1. 第2面全景（南から）



2. 第2面全景（北から）



1. 第2面全景（上が東）



2. 竪穴建物002全景（上が北）



1. 竪穴建物002全景（南から）



2. 竪穴建物002全景（北西から）



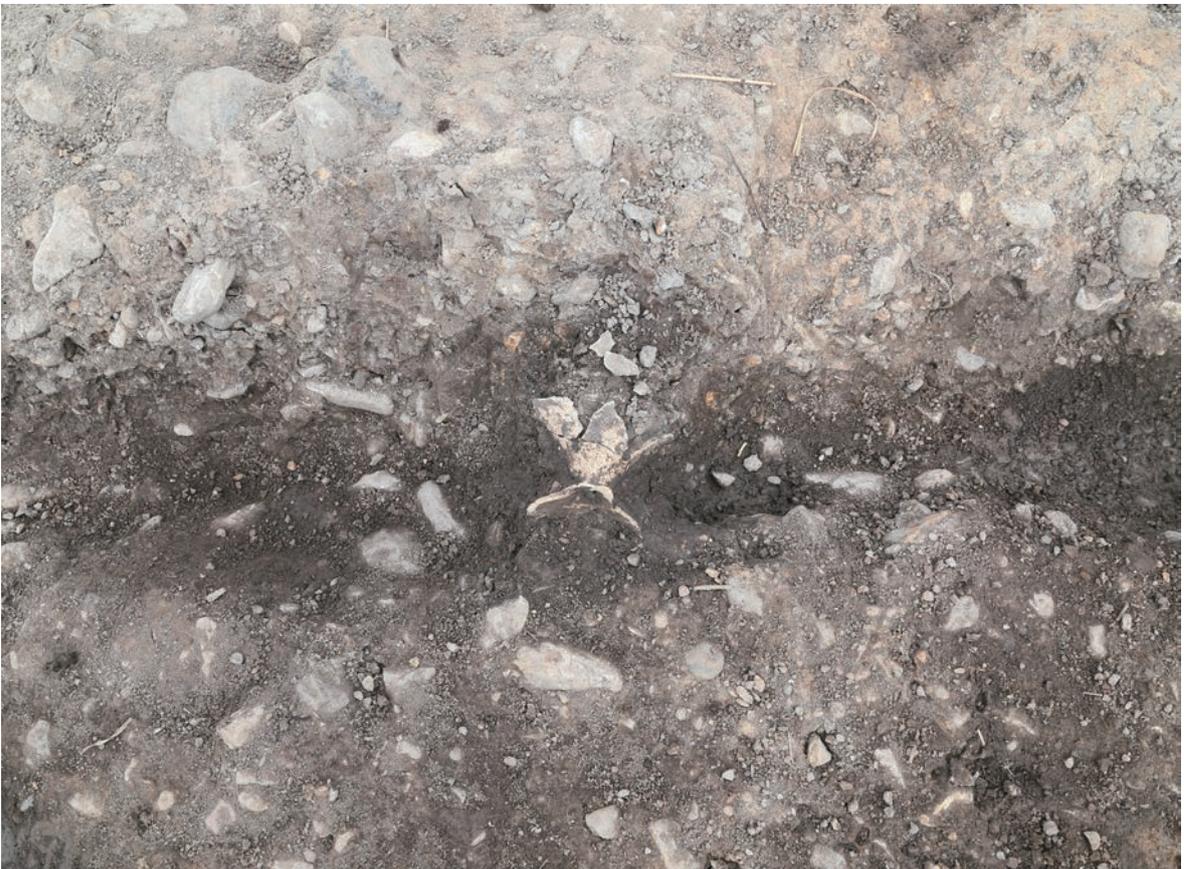
1. 竪穴建物002内土坑067 遺物出土状況（南西から）



2. 竪穴建物002内土坑067 遺物出土状況（北西から）



1. 竪穴建物002内溝066遺物出土状況（北東から）



2. 竪穴建物002内溝066遺物出土状況（南東から）



1. 竪穴建物003全景（北から）



2. 竪穴建物003全景（上が北）



1. 第1面 遺構検出中、溝001、土坑010・011、柱穴020、  
第3層出土遺物（土師器・須恵器・灰釉陶器・輸入白磁・染付）



2. 第2面 竪穴建物002埋土、柱穴063、溝066出土遺物（土師器・石製品）



1. 第2面 土坑067出土遺物（土師器）



2. 第2面 竪穴建物003埋土出土遺物（土師器・石製品）



1. 耕作土出土遺物（脇差刀身・ハバキ・鞘）



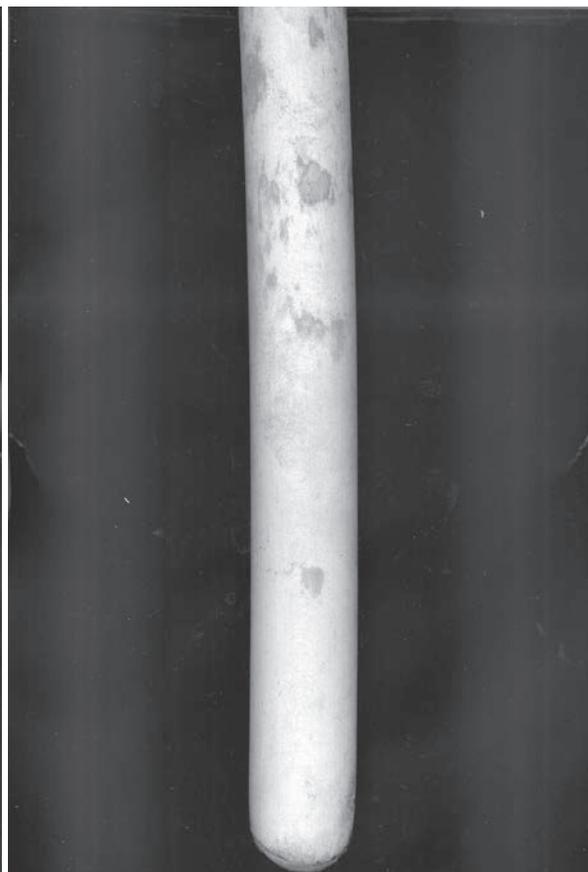
2. 耕作土出土遺物（鐙）



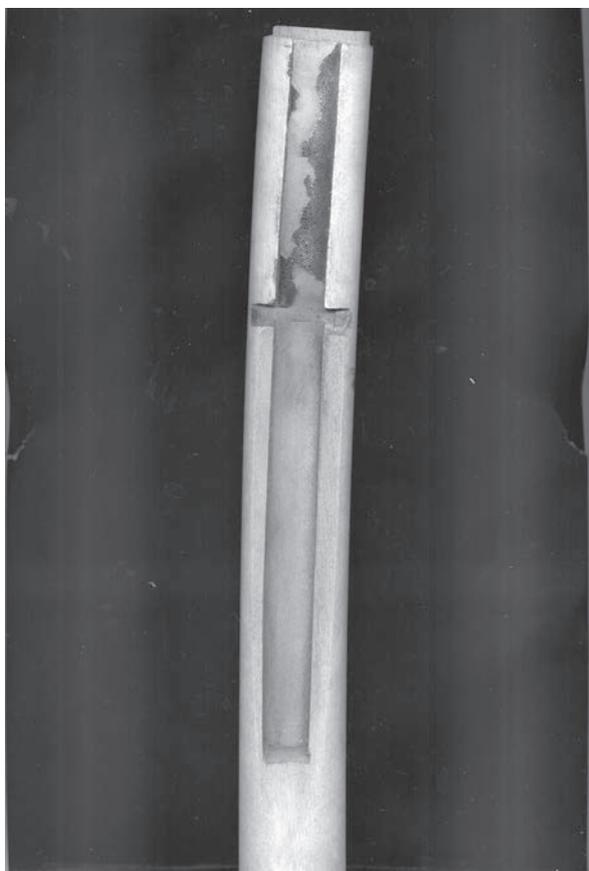
3. 耕作土出土遺物（縁金・切羽）



1. 鞘赤外線スキャン画像1 『□秀□』



2. 鞘赤外線スキャン画像2



3. 鞘赤外線スキャン画像3



4. 鞘赤外線スキャン画像4

## 報告書抄録

ふりがな	しょくぶつえんきたいせきはくつちようさほうこくしょ							
書名	植物園北遺跡発掘調査報告書							
シリーズ名	文化財サービス発掘調査報告書							
シリーズ番号	第32集							
編著者名	田邊貴教 野地ますみ 興梠千春							
編集機関	株式会社 文化財サービス							
所在地	〒601-8127 京都市南区上鳥羽北花名町8番地							
発行所	株式会社 文化財サービス							
発行年月日	2024年6月30日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しょくぶつえんきたいせき 植物園北遺跡	きょうとしぎきょうく 京都市左京区 しもがもきたしばちよう 下鴨北芝町 ばんち 13、25番地	26100	146	35度 03分 12秒	135度 46分 11秒	2024年 2月16日 ～ 2024年 3月29日	294 m <sup>2</sup>	共同住宅建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
植物園北遺跡	集落跡	江戸時代	溝	染付	古墳時代初期（庄内式期）の竪穴建物2棟と柱穴群を検出した。竪穴建物は1棟が方形、1棟が多角形である。方形の竪穴建物は西に約45°の傾きがある。竪穴建物の廃絶後に整地を行い、柱穴が掘られるが、建物としての復元はできなかった。平安時代後期～末期に柱穴と土坑が掘られる。江戸時代以降に耕作地としての床土が盛られ、田畑の区画と思われる南北溝が掘られる。			
		平安時代後期～末期	土坑、柱穴	土師器				
		古墳時代前期以降	柱穴、包含層	土師器				
		古墳時代初期	竪穴建物、柱穴	土師器、石製品				

文化財サービス発掘調査報告書 第32集

## 植物園北遺跡発掘調査報告書

発行日 2024年6月30日

株式会社 文化財サービス

編集 〒601-8127 京都市南区上鳥羽北花名町8番地

TEL 075-672-6800

三星商事印刷株式会社

印刷 〒602-8358 京都市上京区七本松通下長者町下る三番町273

TEL 075-467-5151